

ウォーターフロントから海洋空間まで、人間が住み・働き・憩う環境をデザインする。

No.
115
海建

カキケン magazine

年報
号

研究室説明会の日程
研究室紹介
修士論文・卒業研究
就職状況

目次

令和3年度 研究室説明会日程・クラス担任・学科校務担当	2	博士論文+修士論文+卒業論文・卒業設計	18
令和2年度 学生受賞	3	教員研究業績・研究室活動業績	20
学科イベントカレンダー	3	就職情報	30
研究室紹介	4		

● 令和3年度 研究室説明会日程

時間 日・教室	2時限		3時限		4時限		5時限
	10:40~11:20	11:30~12:10	13:20~14:00	14:10~14:50	15:00~15:40	15:50~16:30	16:40~17:20
4月6日(火) 1325教室	北嶋研究室 [構造工学]	高橋研究室 [建築構法]	福井研究室 [コンクリート 構造工学]	恵藤研究室 [海洋構造デザイン]	居駒・相田 研究室 [海洋空間利用工学]	沿岸域工学 研究室 (野志)	星上研究室 [沿岸環境防災]
4月7日(水) 1325教室	桜井・寺口 研究室 [ウォーター フロント都市工学]	親水工学研究室 (菅原)	山本研究室 [沿岸地域計画学]	小林(直)研究室 [海洋建築・ 建築デザイン]	佐藤研究室 [建築デザイン・計画]		

令和3年度 教室主任・クラス担任

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
教室主任	北嶋 圭二	1361	047-469-5385	kitajima.keiji@nihon-u.ac.jp
学部1年	山本 和清 寺口 敬秀	1362	047-469-5483	yamamoto.kazukiyo@nihon-u.ac.jp
		1357	047-469-5526	terakuchi.takahide@nihon-u.ac.jp
学部2年	佐藤 信治 野志 保仁	1352	047-469-5419	sato.shinji@nihon-u.ac.jp
		1335	047-469-5281	noshi.yasuhito@nihon-u.ac.jp
学部3年	桜井 慎一 星上 幸良	1357	047-469-5526	sakurai@ocean.cst.nihon-u.ac.jp
		1334	047-469-5396	hoshigami.yukiyoshi@nihon-u.ac.jp
学部4年	居駒 知樹 相田 康洋 菅原 遼	1341	047-469-5482	ikoma.tomoki@nihon-u.ac.jp
		1341	047-469-5424	aida.yasuhiro@nihon-u.ac.jp
		1345	047-469-5424	sugahara.ryou@nihon-u.ac.jp
大学院	小林 直明	1346	047-469-8362	kobayashi.naoaki@nihon-u.ac.jp

令和3年度 学科校務担当

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
就職指導	高橋 孝二 菅原 遼	1365	047-469-5424	takahashi.koji@nihon-u.ac.jp
		1345		sugahara.ryou@nihon-u.ac.jp
学生相談	山本 和清	1362	047-469-5483	yamamoto.kazukiyo@nihon-u.ac.jp
留学生担当	桜井 慎一	1357	047-469-5526	sakurai@ocean.cst.nihon-u.ac.jp

学科
事務室

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
日本大学理工学部 海洋建築工学科事務室
TEL: 047-469-5420 FAX: 047-467-9446

岡崎 敏美
倉井 朋美

okazaki.toshimi@nihon-u.ac.jp
kurai.tomomi@nihon-u.ac.jp

学生受賞

●日本大学部科長賞（理工学部長賞）

黄起範 川北章悟

●優等賞

黒谷雄一 神林慶彦
牛奥理子 中川陸

●加藤賞

黄起範：インドネシア共和国における水上交通を活用した首都移転計画の提案 - 木質資源を活かした環境配慮型の複合庁舎の設計 -

川北章悟：海底地すべりの起因となる水膜の形成要因に関する研究 - 堆積物の引張強度を考慮した水膜形成条件 -

遠藤優太：円筒形タンク内の非線形液面動揺に関する実験及び数値的研究

●海建優秀賞

天谷光・黒沼亜美：滑り基礎構造建物の2方向振動台実験
小出将貴：港湾空間の一般開放に関する研究 - 市民の利用促進を目的に開放された事例を対象として -

●桜建賞

今村亮太：円筒形貯槽タンク内のスロッシング及びスワーリング応答解析

奥祐太郎・久良木霧・佐俣夏子・御園生大輝：PCaPC 圧着梁のせん断抵抗機構に関する実験的研究

渡邊朝陽・片平こころ：琵琶湖周辺の水郷集落における水利用・管理の実態に関する調査研究

●海建賞

大島一希・掛札捷人・高須健巨：津波避難困難地域における避難計画の最適化に関する研究 - 千葉県勝浦市興津地区の例 -
高橋勇多・樽井寛：サンゴ礁海岸における供給源減少に伴う海岸侵食に関する研究

佐藤駿介：生業に宿る - 小田原宿の構図と生業の関係性による再編 -
山戸善伸：半透明の遺産 - 地球的建築解を用いた足尾銅山転換計画 -

塩島宇晶・村山裕樹：GISを用いた災害時における主要病院の受入れ人数の算定に関する基礎的研究

落合淳貴：洪水・内水氾濫発生時における高齢者の垂直避難に関する研究

秋本将司：振動水柱型波力発電装置の空気室特性の非線形性に関する実験的研究

●桜工賞

黄起範：設計作品画像等提供による学科広報活動への貢献

根本一希・中村数基・藤田大輝：「景観開花。2020」での最優秀賞受賞による貢献

片平こころ・佐俣夏子：学科広報活動への貢献

●令和2年度（第64回）理工学部学術講演会優秀発表賞

遠藤優太：小型円筒形タンク内の非線形液面動揺に関する実験結果と数値解との比較検討

田中孝登：内港地区における低未利用水面の活用方策に関する研究 - その2 東京港の貯木場水面に見る水陸の関係性と機能転換のプロセスに着目して -

川北章悟：海底地すべりの起因となる水膜現象と堆積層境界の引張強度に関する検討

守津颯哉：ムーンプールの形状の変化が浮体の運動応答に与える影響に関する研究

矢部春恵：P- Δ 効果を考慮した積層ゴム支承の線材置換モデルによる解析結果と実験結果の比較検討

横畑祐樹：豪雪地帯における水路を活用した雪の濾過ネットワーク
佐藤駿介：小田原漁港周辺における現代版小田原宿の提案

鈴木湧大：弾性係留索により係留された大型石炭貯蔵浮体の運動応答解析 - 弾性係留索とカテナリー係留による運動応答の比較 -

松崎浩晴：木質フィーレンディールトラスの基本的構造特性に関する研究 - その1 接合部試験 -

渡邊朝陽：高島市上小川地区における人と水路の係わりに関する調査研究 - その1 地区内の水路形態と水利施設の設置形態に着目して -

学科イベントカレンダー

2021年

4月8日(木)	入学式	夏季休暇中	海洋実習Ⅱ（2年生）
7月中旬	「海と建築」ポスター発表（1年生）	10月29日(金)	桜理祭（～10月31日(日)）
夏季休暇中	海洋実習Ⅰ（1年生）	12月1日(水)	理工学部学術講演会

2022年

1月上旬	博士論文公聴会	3月7日(月)	卒業・修了発表
2月上旬	卒業研究発表会	3月25日(木)	卒業式（学位記伝達式）
2月下旬	修士論文審査会	—	—

海洋建築・建築デザイン研究室

1346 室

Teaching Staff



教授
小林 直明

●研究室紹介

研究室は、「建築を通して社会貢献する」を理念とし、設計提案または研究活動の成果を実際プロジェクトに反映できるようにしています。さらに研究室というデザインは、単なる「かたち」ではなく全て機能があることを基にしています。

海洋建築工学分野自体は建築と土木と、またその他の技術分野の融合が重要である認識しています。さらに建築は現在まで培ってきた技術と異分野の技術の融合させることで更なる発展があると考えます。周辺のまちづくり、自然の環境、自然エネルギー等を考慮して建築を設計しますが、今後は建築自体が異分野の機能と結び付くことは必須と考えます。

イノベーションを起こす場合、単独分野の既往の技術に縛られることなく異分野技術との融合を図ることで達成されるケースが多いことから、既往の技術の集積でなく、常にチャレンジ精神で新しい物事に向き合う姿勢が重要です。また、現在行なわれている3.11復興において、建築と土木の両分野の融合でもある海洋建築工学分野は、自然と防災、ユニバーサルデザイン、同時に地域産業と共存できる将来の国土づくりのリーダーシッ

プを担う使命があると考えます。

新たにデジタルファブリケーションによる建築パラメトリックデザインを研究テーマに加えしました。地方活性化に繋がる空き家の設計から施工までのリノベーション実施プロジェクトを開始しています。また、遠洋における海洋開発資源基地の執務空間、居住空間の設計から施工までのセルビルドに貢献できます。

●卒業設計・研究のテーマ

【建築・海洋建築・まちづくり計画デザイン】

- 1) 建築と土木を融合した海洋建築デザイン・サステナブル海洋建築デザイン
- 2) 人の知的生産性（プロダクティビティ）と行動（アクティビティ）を高める建築デザイン
- 3) 新交通システムと連携する建築デザイン
- 4) 3.11復興計画デザイン（津波&放射線）・東南海トラフ地震による津波被災想定地のまちづくりと建築デザイン
- 5) 歴史的建造物の動態保存（使いながら保存する）と歴史的建造物のサステナブルデザイン
- 6) 既存ストックを利用した建築デザイン
- 7) デジタルファブリケーション建築パラメトリックデザイン

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、デジタルファブリケーション建築デザインをテーマとします。パラメトリックデータ利用で、設計からセルフビルドまで実施プロジェクトに取り組みます。

●着手条件

建築大好きな学生。デザイン（建築だけに捉われない）大好きな学生。デザイン演習の授業を受けて楽しいと思った学生がゼミ着手必須条件となりますので、基本的には卒研は設計が基本となります。



IA・デスクチャレンジ設計コンペ「山脇賞」（受賞年月 令和2年7月27日）主催：（公社）日本建築家協会北海道支部、（株）デスク



デジタルファブリケーション建築デザイン
パラメトリックデータ利用による
設計とセルフビルド wall



島根県江津市有福温泉空家リノベーション
デジタルファブリケーション実施提案 プロポーザル

ウォーターフロント都市工学研究室

1357 室



●研究室紹介

卒業するまでに、次の3つのスキルを身につけることを研究室のモットーにしています。

- (1) 社会人として最も大切なのは時間を守り有効に使うことです。ゼミで最初に学ぶのは「**時間の管理**」です。時間を把握し、主体的に管理し、破綻のないスケジューリングを計画・実践する技術を身につけます。
- (2) ゼミ論や卒研のテーマは、自分の好きなことで挑戦できます。問題だと感じていること、将来、社会で必要になってくることを考え、自らが提案します。計画や企画・開発の分野で就職を目指す人は、社会を観察し、「**ニーズを掘り起こす能力**」が必要だからです。
- (3) どんなに優れた研究でも人に上手に伝えることができなければ価値を認めてもらえません。自分の言葉で、わかりやすく、決められた時間内で、興味を引き飽きさせない「**プレゼンテーション力**」を養います。

●ゼミナール活動

前期は、時間管理や就活に向けた座学と、三番瀬やWFの見学会を実施します。夏季休暇前（7月頃）～12月末までの約半年間はゼミナール研究論文を作成し、成果は4年次に学会でも発表します。学生の学会発表状況などは、本誌各研究室紹介の後に続く「教員研究業績・研究室活動業績」をご覧ください。

●2020年度のゼミナール研究論文テーマ

- 岩原萌絵：ワーケーション需要に寄与するウォーターフロント施設の設定状況について
- 加藤祥：ウォーターフロントにおけるインフラツーリズムの利用形態と今後の活用について
- 五江洵佑真：通勤・通学手段として利用されている水上交通の特性について
- 鈴木優志：港付近に展開している朝市について
- 鈴木凜香：印象に残る灯台のデザイン特性について
- 田中颯：津波避難シェルターの整備実態について
- 露木葵・丸山奈々葉：ウォーターフロントにおける公園のバリアフリー整備状況について
- 戸枝玲奈：砂浜沿いにおける歩道の整備状況について
- 樋口黎：海岸付近に設置された公衆トイレのデザイン・機能特性について



WF 見学会（東京・隅田川沿い）



2020年のゼミ論発表会

山田栞：ウォーターフロントに整備されたボードウォークの利用実態について

佐藤友香：東日本大震災から現在における東京湾内の津波対策の変化について

●過去の卒業研究論文テーマ例

(A) ウォーターフロントを快適利用する環境整備

- ① ウォーターフロントの住宅を選ぶ住民の居住意識
- ② 高齢者に配慮した親水テラスの整備方法
- ③ 調整池の市民開放と多目的利用に向けた方策
- ④ ペット専用ビーチの整備と運営手法
- ⑤ 水中文化遺産を利用したダイビングスポット整備

(B) ウォーターフロントの景観計画とデザイン

- ⑥ 港湾倉庫の歴史を継承するための動態保存策
- ⑦ 水辺景観を向上させる保存船舶の展示方法
- ⑧ 要塞跡・砲台跡の利活用方針
- ⑨ SNS 投稿内容からみた観光客の興味対象の分析
- ⑩ 大規模防潮堤による景観や観光地への影響

(C) ウォーターフロントの開発と有効利用

- ⑪ クルーズ船誘致による沿岸部の地域振興方策
- ⑫ 漁港を活用した水上飛行機の就航地選定
- ⑬ 浮体施設の建造に伴う法規制の研究
- ⑭ 灯台の地域資源としての価値評価と保存活用方法
- ⑮ 洋上風力発電施設設置に向けた漁業者の意識

(D) ウォーターフロントの減災対策

- ⑯ 津波ハザードマップの表記統一と利用促進方法
- ⑰ 津波避難ビルの建築を誘導する条例・制度内容
- ⑱ 海水浴場などマリナー施設での津波避難計画
- ⑲ 河川を遡上する津波からの避難対策
- ⑳ 市町村連携による避難困難地区の解消方法

●主な年間行事（③④の学会発表は4年生以上）

- ① WF 見学会・ゼミ生歓迎会（5月）、② 三番瀬体験散策会（6月）、③ 日本沿岸域学会研究討論会での発表（6月）、④ 日本建築学会大会での発表（9月）、⑤ 夏季研修旅行（9月）、⑥ 日本大学理工学部学術講演会での発表（12月）、⑦ ゼミナール研究論文発表会（12月）、⑧ 桜井研究室卒研発表会（2月）

●着手条件

本研究室のフィールド（都市計画や都市政策）に興味がある人を募集しています。入室希望者は研究室説明会に必ず出席し、個人面談を受けてください。また、ウォーターフロント計画Ⅰ・Ⅱ、建築法規、海洋政策と関連法規などの科目を履修していることが望ましいです。興味を持ったならばまずは教員や研究室の学生に話を聞いてみてください。

建築デザイン・計画研究室

1352 室

Teaching Staff



専任講師
佐藤 信治

●研究室紹介

本研究室は、建築のデザインに関わる様々な事象について、積極的に学習したい！という学生・院生で構成されています。まずは建築やデザインが好き！であることが大切です。建築のデザインはある意味では大変な作業ですが、この大変なことを積極的に楽しめる人と一緒にワイワイ・ガヤガヤと学びたいと思います。

また建築をデザインする前段階としては建築を計画するということも重要です。このため、研究室では、企画から実際に建築物を創造するまで（含、施工）の全過程に興味があり、意欲的な学生の入室を希望しています。将来の進路に関しては、大学院、デザイン事務所やゼネコン設計部（昨年度は、鹿島建設、大林組、大成建設など）への就職を積極的に支援し、設計部門への就職率は毎年100%（当研究室比）を維持しています。

●卒業研究のテーマ

本研究室では、建築の創作過程における水環境との関わりを特に重視しており、これを専門の〈設計・デザイン〉と〈建築計画〉の両分野から研究しています。従って卒業研究は最終的に設計・デザインテーマと建築計画テーマとに分かれて実施しますが、その過程では、今年度も計画と設計の両方について行う予定です。

〈設計・デザインテーマ〉

- ・水環境を活かした建築のデザイン
- ・内蔵を活用したサテライトオフィスのデザイン
- ・3D スキャナーを活用した空間アーカイブシステムの構築
- ・「MR(Mixed Reality)」を活用したデザイン

〈建築計画テーマ〉

- ・秋田県各地区の登録有形文化財の調査
 - ・水環境下における建築の空間デザインの研究
 - ・社の空間解析に関する研究
- 昨年は、卒業設計作品が多く受賞しました。主なものとして、赤レンガ展では、中村美月さんの「東京暗渠再生」が最優

秀賞に選ばれました。また、横畑佑樹君の「切断すること、それは繋ぐこと」は、千葉県建築学生賞において最優秀賞に輝きました（写真1、2）。

〈インターンシップ〉

国内外の地方自治体、デザイン事務所と積極的に交流を図っています。近年は、夏期休暇を利用して東北各地の地方自治体と「まちづくりワークショップ」を開催しています。

また、2011年度からは中華人民共和国北京市の中国建築科学研究院と共同で海外インターンシップを開催しております。2020年は煙台市において海洋研究開発都市計画のコンペに参加しました（写真3、4）。

さらに中国国内の青島市においては、広大なウォーターフロントに水辺を活用したIR（インテグレートド・リゾート）Project が進行中です。

●ゼミナールのテーマ

設計デザイン及び建築計画の分野について、基礎力の養成を主眼に幅広く学習します。具体的には、各学年の課題設計、学生コンペ等の指導、建築作品に関する展示会や話題建築物の見学会などを随時行い、ゼミナールについては、学期末にその成果の発表会を実施します。また、大学院生や学部生とのコラボレーションでコンペへの参加を推奨しており、今年度は景観開花コンペで最優秀賞、歴史的空間デザインコンペにおいて優秀賞を受賞するなど多くの成果がえられました。

●着手条件

研究室の説明会に必ず出席し、個別面接を受けてください。設計を希望する者は2年次までの全ての設計作品を面接日に持参してください。ただし計画・研究分野の希望者はこの限りではありません。また、大学院進学希望についても、面談時にご相談ください。

写真1



写真2



写真3



写真4



親水工学研究室

1345 室



●研究室紹介

本研究室では、「人と水との係わり」をテーマとして、水と都市、水と建築、水と空間、水と生活などの観点から、私たちの生活環境における水環境の意味を探り、生活環境の質的向上に寄与する親水空間や海洋建築の計画的知見を得るための活動を行っています。

研究活動では、水との係わり方を実際に観察できる現地調査を重視し、フィールド・サーベイやオーラルヒストリーなどの調査手法を駆使して、都市部から農村部にかけての海や河川、運河などの多様な水環境をフィールドとした調査を行います。そのため、研究室では「歩く・見る・考える・伝える」チカラの修得を重視し、建築を観て、都市を感じ、水辺を知り、地域を理解するための関連研究・文献の紹介や、実際に水辺を訪れるまち歩きワークショップの開催など、研究テーマに関する理解増進や興味・関心を深めるための活動を行っています（写真1）。

また、地域と連携した実際的な研究活動や設計活動もっており、研究成果のアウトプットや地域の方々と連携したものづくり経験を通して、まちづくり・ものづくりに対する多角的な考え方を養い、将来、社会で活躍できる人材育成を行います（写真2）。

本研究室を卒業したOB・OGは、建設コンサルタント、ゼネコン（都市開発、施工管理）、内装設計、公務員など、都市・地域・建築計画立案や建築設計施工に携わる企業に就職しており、こうしたOB・OGによる就職情報交換や大学院進学支援も行っています。

●ゼミナールのテーマ

ゼミナール活動では、前期は、都市・地域・建築計画に対する思考力や表現力の修得に向けたゼミ課題を実施します。具体的にはIllustratorやPhotoshopを用いた表現技術をわかりやすく丁寧に解説指導します。また、地域と連携した実際的なデザインビルドを全国各地の水辺（千葉県八千代市、神奈川県横浜市、新潟県佐渡市）で行います。後期は、卒業研究・修士論文と連携した研究活動を行い、文献調査や現地調査、研究発表などを通して研究の基礎を養い、卒業論文

の執筆に向けた自身の興味・関心の深化を図ります。

●卒業研究のテーマ

卒業研究では、ゼミナール活動を通じて興味・関心を深めたテーマを中心に親水工学に関する調査研究を行います。近年の卒業研究のテーマは下記の通りです。

【都市・建築系】

- ・沿岸域の風土的建築物の環境特性に関する研究
- ・都市水面活用による地域づくりに関する研究
- ・湧水を活かした地域づくりに関する研究
- ・水害常襲地域の地域建築対応に関する研究
- ・海拔ゼロメートル地域の地域建築対応に関する研究

【人間行動・意識系】

- ・親水空間における人間行動と評価に関する研究
- ・水辺の市民開放施策に関する研究
- ・水害常襲地域の災害意識に関する研究
- ・水郷集落の水利用に対する住民意識に関する研究

【地域・建築デザイン系】

- ・仮設性および移動性を考慮した建築物デザイン
- ・都市熱緩和のための親水空間デザイン
- ・貯木場水面の活用のための海洋建築物デザイン
- ・漁港漁村活性化のための地域デザイン
- ・コロナ禍での水辺空間利用のためのデザイン

●着手条件

研究室説明会には必ず出席し、個別面談を受けてください。希望者は、研究室活動や卒業研究着手、就職活動に支障のないように単位を取得していることを希望します。大学院進学希望についても、個別面談時にご相談ください。



写真1 まち歩きワークショップ@三島市・源兵衛川

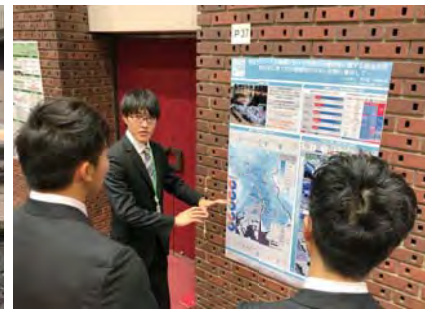


写真2 学会での研究成果発表



写真3 竹建築のデザインビルドによる実践活動



写真4 水辺の建築の実測調査

沿岸地域計画学研究室

1362 室

Teaching Staff

准教授
山本 和清

●研究室紹介

本研究室は、沿岸域を対象にした地域計画及び地域活性化計画を研究分野とした研究室です。社会の動向により日々変化を続ける沿岸域において、常に新しい視点でまちづくりを考え、安全・安心・快適な都市空間の創出や社会システムの向上を目指して研究を進めています。

また、本研究室ではOJT (On the Job Training) に重きを置いて研究を進めています。OJTとは「実地の経験を通して知識や技能を身につけさせる教育方法」のことです。本研究室の研究テーマでも「まちづくりにおける社会福祉のあり方」について考究しているため、「ハンザ (旧アクセスディンギー)」という誰もが (小さい子供から高齢者・障がい者までも含む) 海の快適性を享受できる小型ヨットの普及活動により、高齢者・障がい者を含む市民との触れ合いを経験することで、研究に必要な考え方や見識を身につけています。具体的には以下の活動を行っています。

「たてやま海まちフェスタ」(千葉県館山市において毎年7月に開催されている、海をまちづくりの中心に位置づけた南房総地区における大々的なイベント)、「東京夢の島マリーナフェスティバル」「浦安マリーナフェスティバル」(毎年9月に開催される両マリーナの一大イベント)、「船橋港まつり」(毎年10月に船橋漁協や船橋観光協会、様々な海関係のNPOや水産関係の地元企業が中心となって、船橋漁港で行われる市民まつり)では、それぞれの会場の海域を使用してハンザの体験乗船会を実施し(写真1、2)、研究室の学生自らが乗船時の介助者となり、体験乗船会に訪れた市民との交流を深めています。この様な活動を通して地域市民と触れ合い、海の自然や沿岸域の市町村に存在する海の魅力的な資源を発見していくことにより、本研究室の研究テーマとしている地域活性化方策や高齢者・

障がい者にも優しいまちづくりについて、実体験として学べるのも本研究室の大きな特徴と言えます。

●卒業研究のテーマ

[地域・都市活性化計画系]

- 1) みなと町活性化方策と“環境・観光・学習”港湾計画
- 2) 防災船着場の有効活用を目指した手法論の検討
- 3) 漁港における観光利用の推進方策
- 4) 体験観光による地方都市の活性化方策
- 5) 海洋リゾートにおける観光資源の有効利用方策

[福祉のまちづくり計画系]

- 1) 高齢者・障がい者と海のUD計画
- 2) 高齢者・障がい者の災害時避難計画

[海洋プロジェクト系]

- 1) 海洋政策及び沿岸まちづくりにおける制度設計 (再生・復興・復活・改革)
- 2) Something New Project

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究において必須のPCスキルを身に付けると同時に、宅建資格取得講習会や就職対策としての面接指導、自分の考えを解りやすく相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上を目指した課題に取り組んでもらいます。

●着条件

特に無し。研究室訪問時に、熱意を持って自己アピールしてください。



写真1 「たてやま海まちフェスタ」ハンザ体験乗船会



写真2 「船橋港まつり」ハンザ体験乗船会



写真3 研究室合宿でのゼミ課題発表会



写真4 新入ゼミ生歓迎会 (東京都臨海広域防災公園見学会)

構造工学研究室

1361 室

Teaching Staff



教授
北嶋 圭二

●研究室紹介

北嶋研究室では、沿岸域の陸上建築物から氷海域の海洋構造物まで、設置場所や構造種別にとらわれず、幅広い建築構造物を対象に「より高度で合理的な構造システム」に着目して研究を行っています。

当研究室での研究の特徴は、大型構造物試験センターや環境・防災都市共同研究センターの大型・最新実験設備を用いた、“建築構造システム”および“建築構造部材の構造性能”に関する実験的研究が多いことです。これまでに世界的にも例の少ない大型構造物実験を数多く実施してきました（写真1）。

また、建物の耐震性能評価や制震構造設計法の開発のために、弾塑性地震応答解析などコンピューターによるシミュレーション技術を用いた解析的研究も数多く行っています。その他、テクノスペース 15 に設置されている低温実験室の氷海水槽を用いた実験的研究も行っています。

建築構造工学に軸足を置き、海洋構造物ほか幅広い分野を対象に研究を行っています。

●主要な研究テーマ

1. 鉄筋コンクリート (RC) 造建物の耐震性能に関する研究

- 1-1 損傷低減のための耐震設計法並びに制震補強技術の開発
- 1-2 衝撃荷重を受ける RC 部材の挙動に関する研究
- 1-3 超高層 RC 造建物の柱および柱梁接合部の構造性能に関する研究
- 1-4 海外の RC 造建物の耐震規定に関する調査・研究 etc

2. 合理的な耐震構造システムに関する研究・開発

- 2-1 次世代制震構造システムに関する研究・開発
- 2-2 滑り基礎構造システムに関する研究（写真2）
- 2-3 折返しブレースを用いた構造システムに関する研究（写真3）
- 2-4 制震構造建物の性能評価および設計法に関する研究
- 2-5 間柱型レンズダンパーの



写真1 大型構造物試験センターでの構造実験



写真2 滑り基礎構造建物の振動台実験



写真3 折返しブレースの取付状況



写真4 低温実験室における氷海構造物の実験

研究・開発

2-6 高強度 CFT 柱の構造性能に関する研究 etc

3. 海洋建築物の構造性能に関する研究

- 3-1 津波漂流物の衝突に関する研究
- 3-2 氷海構造物の氷荷重評価と応答性状に関する研究(写真4)
- 3-3 海底地すべりに関する実験的研究
- 3-4 海洋建築物の設計指針策定に関する調査・研究 etc

4. その他、企業からの受託研究など

1-1 の制震補強技術は既に 100 棟以上の実施適用例があり、実際の地震防災対策に大いに役立っています。2-3 の折返しブレースや 2-5 のレンズダンパーのテーマも既に実施例が数例あり、合理的な構造システムとして注目されています。その他のテーマについても、研究成果を論文発表というかたちで情報発信することにより、構造技術の発展に貢献しています。

●卒業研究のテーマ

上記主要研究テーマをベースに、卒研生の意向を聞いて卒研テーマを設定しています。

●ゼミナールのテーマ

自由課題：建築構造物・海洋構造物の小型模型実験

前期は基礎的な力学の勉強会を行います。また、海洋構造物や陸上建築構造物に対して興味や疑問に思っていることを確かめるために、自分たちでテーマを決めて小型模型実験を実施します。実験は学部祭にて公開します。

●着手条件

構造に興味があり、探究心旺盛な人を歓迎します。

計算工学研究室

1353 室

Teaching Staff



教授
近藤 典夫

●研究室紹介

当研究室は、大スパン建築物や海洋建築物の周辺あるいは都市空間において流体（風、海流、波など）がどのように流れていくのか、そして建築物および人間にどのような影響を与えているのかをメインテーマに掲げて研究を行っています。このような問題、特に高層建築物や波浪の影響下にある海洋建築物では、大きな揺れが発生しますので、それがどのような揺れ方になるのか、さらに人間の生活環境に対してどのように影響を及ぼすのかについて研究しています。当研究室では、上記のことを実施するに当たり、コンピューターによるシミュレーション手法を使って研究を行っています。

研究範囲は地上・海洋空間を問わず、あらゆる空間および興味あるものなら何もかも研究対象に加えていきます。

研究室の活動は、夏合宿、ゼミナール・卒業研究発表会、懇親会などを行い、楽しい一年間を過ごします。

●卒業研究のテーマ

卒業研究テーマは以下の通りです。他に希望するテーマでも卒業研究を行うことができます。

[1] 流体運動

- 1) 建築物まわりの気流の数値的研究
- 2) 建築物の内部を流れる気流の数値的研究
- 3) 乱流の数値的研究
- 4) 大型海洋建築物まわりの海流と波の数値的研究
- 5) 大型貯蔵タンク内のスロッシングの数値的研究
- 6) 都市のヒートアイランドの数値的研究
- 7) 津波の遡上に関する数値的研究

[2] 建築物の不安定振動

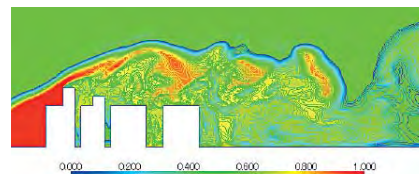
- 1) 風力を受けた建築物の渦励振・ギャロッピングの数値的研究
- 2) 海面下の海洋構造物の渦励振の数値的研究
- 3) 大型浮体構造物の波浪応答に関する数値的研究

[3] シェル構造解析

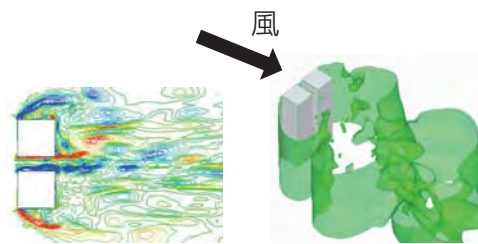
- 1) シェル構造物の静的・動的解析
- 2) 膜構造物の応力解析
- 3) 大型貯槽タンクの大変形解析・振動解析

●着手条件

特に設けていませんが、説明会には必ず出席をして下さい。やる気のある学生、大いに歓迎です。



卒業研究より：建物群まわりの温度分布（地面が太陽光で温められている。赤色：温度が高い領域、青色：温度が低い領域）



卒業研究より：並列2正方形角柱まわりの流れ（渦度、圧力等値面）



卒業研究より：直列2円柱の背後での渦の流れの様子



卒業研究より：
地震動を受けた
タンク内の液面動揺



卒業研究より：
地震動を受けたタンク内の
スワリング



研究室のゼミ合宿：夏の軽井沢研修所

建築構法研究室

1365 室

Teaching Staff



准教授
高橋 孝二

● 研究室紹介

日本国内で震度7を記録した大地震（平成7年：阪神淡路大震災など）が、この30年足らずで実に5回も発生しています。まさに本国は地震活動期の真っ只中にあります。また、ここ最近では地球温暖化の影響とされる想定を遥かに超えた風雨により、数多くの災害が発生しています。これら自然災害に対する防災・減災技術の向上や発展への貢献は、海洋建築工学科の大きな使命の一つであります。

本研究室では、「地震に強い建築」を目的に、耐震構造としての要求性能が高い超高層建築物の構造設計や施工技術または免震・制震構造に関する研究を行います。また、研究室の取組の一つとして木構造も取り上げます。近年、国内の森林資源の有効活用や持続可能な開発目標（SDGs）への対応として中大規模木造建築物への期待が高まっていることから、木造建築の高層化実現のための研究にも取り組みます。

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究や大学院での研究、卒業後に構造に関わる仕事をするための基礎となる知識を身に付けてもらいます。3年生で履修する構造解析や振動工学の知識をさらに深めてもらうため、平面フレームの構造解析や質点系の時刻歴応答解析の簡単なプログラミングを実施します。

自分で実際にプログラムを作ることにより、理解が深まりそれを発展させることにより卒論や修論の研究にも役立ちます。

●卒業研究のテーマ

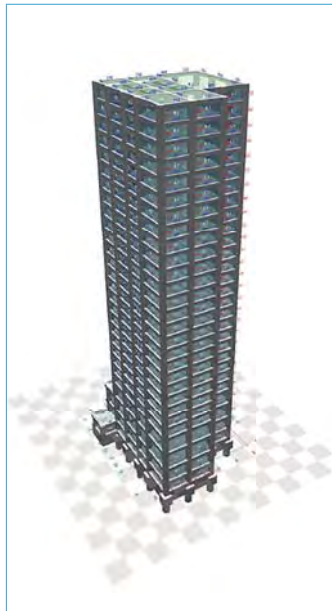
卒業研究では、以下のようなテーマ例を上げるが、建築構法に関わるテーマなら学生自身で選定しても構わない。

- ・超高層鉄筋コンクリート造建築物の構造設計
- ・プレキャスト鉄筋コンクリート工法の構造性能
- ・免震、制震構造の設計および解析
- ・中大規模木造建築物の基礎研究

●着手条件

1年生、2年生で学んだ構造力学の講座や海洋建築実験が「おもしろいな」と思った学生なら問題ない。

将来、構造に関わる仕事（ハウスメーカー、ゼネコン、設計事務所等の構造部門）を目指そうと思っている学生を歓迎します。



超高層鉄筋コンクリート造建築物の構造設計



プレキャスト部材



プレキャスト部材の構造実験

新任教員紹介

准教授 高橋 孝二（たかはし・こうじ）

専門分野：超高層鉄筋コンクリート造建築物の構造設計、プレキャスト鉄筋コンクリート工法の構造性能、免震・制震構造の設計および解析、中大規模木造建築物の基礎研究

略歴：1992年3月 日本大学理工学部海洋建築工学科 卒業
2002年2月 博士（工学）の学位取得

職歴：1992年4月 西松建設株式会社 入社
技術研究所構造研究課 配属
2006年6月 建築設計部構造課 配属
2021年3月 西松建設株式会社 退社
4月より日本大学に着任

西松建設に在職中は、高層マンションの建設需要の高まりもあり、鉄筋コンクリート造建物の更なる高層化に向けた開発を数多く手掛けました。コンクリートの設計基準強度が100N/mm²を超える部材の構造性能や耐火性能、プレキャスト工法の合理化等の開発に従事しました。こうした技術研究所時代の経験から、設計部へ異動後には、高層マンション案件の構造検討や設計・監理に携わりました。私のこれまで培った幅広い知識と経験を活かし、耐震構造の研究はもとより超高層の設計・施工に関わる研究や最近関心が高まっている中大規模木造建築にも、学生の皆さんと取り組みたいと考えています。

コンクリート構造工学研究室

1366 室

Teaching Staff



教授
福井 剛

●研究室紹介

研究のこと：私たちの研究室では、建築構造および材料Ⅱの後半で学んだプレストレストコンクリート（以下 PC）構造（オープンキャンパスで皆さんが乗って驚いていたあのコンクリートの板です）を対象に、その力学的性状の解明と設計法の確立を目指して研究を進めています。PC 構造は、①ひび割れが生じないために沿岸域においても耐久性が極めて高く、② 30m を超える大スパン構造を作ることができるためにデザイン性に優れた建物を作ることが可能です。また③優れた復元性があるため耐震性にも優れています。これらの特性を活かして、東京スカイツリーの心柱や原子力発電所施設といった飛び抜けた高性能が要求される構造体や、2002FIFA ワールドカップや今年行われる東京オリンピック施設といったデザイン性を求められる建物などに広く使われています。私たちの研究室での合言葉は、「研究成果が設計や開発および研究の場で広く用いられるような研究をする！」です。信頼性が高くシンプルで独創性に富んだ研究成果は、国や学会の設計規準に多く採用されており、対外的に高い評価を受けています。

研究室の雰囲気：堅い話になってしまいましたが、私たちは、研究を円滑に進めるためにはリラックスした雰囲気が不可欠であり、研究室では教員とゼミ生、卒研究生、院生がお互いにフランクに話し合えるような場にしたいと考えています。ただし、ここぞと言うときは真剣勝負です。

年間行事

①顔合わせ会：所属が決まったゼミ生が卒研究生、院生、教員と親睦を深めるために4月下旬に実施。②夏合宿研究発表会：卒研究生、院生が行っている研究の経過を発表するために厳格な雰囲気のなか9月初旬に実施。発表終了後は普段通りの無礼講タイム。③実験打上げ：実験終了時に無事故と研究成果を祝うための行事。④ほか：めでたいことなどがあれば適宜。

●ゼミナールのテーマ

1) マトリクス法による任意形骨組解析ソフトとファイバ法による断面解析ソフトの作成
2) 構造力学およびコンクリート構造の勉強会及び演習
3) 卒業研究時に必要なコンピュータスキル（CAD、エクセル、パワーポイント）の修得

テーマ1)、2) は、それぞれ週1回教員が、テーマ3) は週2回大学院生が担当しています。ゼミ生にはこれらのテーマから2つ以上を選択してもらいます。3年次には受講しなければならない大切な専門科目が目一杯あるので、そちらにも十分

な時間が割けるよう配慮しています。

●卒業研究のテーマ

- 1) 圧着 PCaPC 部材のせん断抵抗機構
- 2) 長期荷重が PC 造建物の地震後の性能に及ぼす影響
- 3) RC および PC 部材のせん断終局強度式の提案
- 4) PC 有孔梁の合理的な設計法の開発
- 5) PC 造柱梁接合部の応力伝達モデルの開発
- 6) プレキャスト PC 圧着継目の滑り破壊耐力に対する設計法の提案

上記の卒業研究の内、1) は実験を計画しています。苦勞は伴いますが体で感じる達成感は抜群です。2)～6) は解析が主となるので、コンピュータ好きの人に向いていると思います。ただ、ゼミに入って色々やっているうちに解析大好き人間に変身するケースも稀ではないので、君たちは自分自身にあまり先入観を持たないほうがいいのかもしれませんが、君たちが、真剣にこれらのテーマに取り組むとはまります。

●着手条件

ゼミに欠席しないことと卒研に没頭することを約束できることを最優先条件とします。卒研に注ぎ込む時間を十分に確保できるように取得単位数が一定以上であるとさらに良し。研究内容と研究室の雰囲気に馴染めることを確認するために研究室訪問で院生や教員の話聞いてください。



写真1 PC梁のせん断破壊実験準備



写真2 夏合宿

海洋空間利用工学研究室

1341 室

Teaching Staff



教授
居駒 知樹



助教
相田 康洋

●研究室紹介

当研究室は、海で利用される各種海洋建築物、海洋構造物などの特に浮体システムが波や流れからどのような影響を受けて、どのように動くのかなどの波浪中の耐波性能の視点から設計を考える研究をしています。そのために波浪の性質なども研究の対象領域です。また、波浪だけでなく津波や高潮などの自然災害に関わる海洋波も研究対象であり、さらにそれらによる災害そのものや対策を考えることも当研究室の研究領域です。非常に研究領域が広がるため、必要な各種解析プログラムの開発やそのための理論構築、数値計算力学（CFD）的手法の開発を行っています。それらを駆使して、浮体システムの新技術の提案、波力発電・洋上風力発電浮体・潮流発電等のシステムの解析法開発・最適化、津波のような強非線形波浪による構造物への流体荷重や物体同士の衝突荷重、津波被害予測と避難対策技術提

案など、海洋空間を利用するために必要な工学技術全般の研究とコンセプト提案をしています。

研究のキーワード：浮体システム、海上・海域施設、流体解析、浮体挙動、海洋再生可能エネルギー、津波防災・減災、強非線形海洋波、海洋空間利用・提案、デジタルツイン

●卒業研究のテーマ

卒業論文・修士論文に記載した研究テーマや、それぞれのテーマにまたがった横断的な研究テーマも含め、各自の意向に基づき卒業研究を選択して実施します。



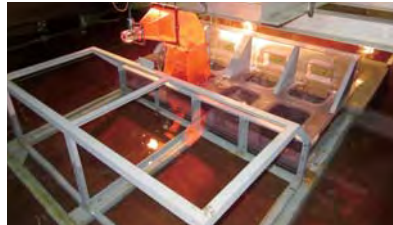
修士・卒業研究に取り組む学生

●着手条件

「海洋建築」への情熱や気力、体力のある学生、また大学院への進学希望者を歓迎します。浮体システム開発・技術や波・流体解析、巨大津波に対する防災や減災、避難に関する研究や、更なる海域利用技術、海洋再生可能エネルギーの利用や開発などに興味がある学生は是非、研究室へ相談に来て下さい。



垂直軸型可変ピッチ翼水車の実海域実験



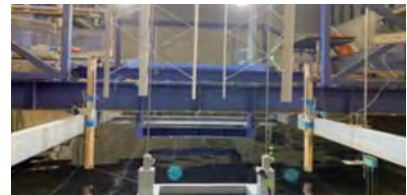
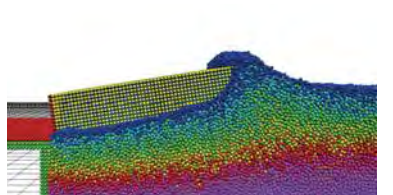
水柱振動型波力発電装置の水槽実験



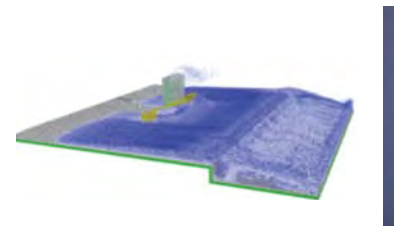
浮体式垂直軸型洋上風車



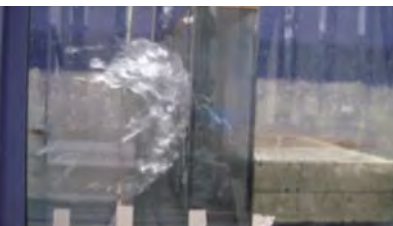
粒子法による浮体乗り上げシミュレーションと実験の比較



浮体式垂直軸型水車の水槽実験の様子
(修論・卒研)



津波による建築物と浮体の衝突シミュレーション



建築物に作用する津波衝撃波圧に関する実験



津波による作業船の漂流速度に関する実験

海洋構造デザイン研究室

1342 室



2019年度の夏合宿の写真(群馬県 花咲温泉)

Teaching Staff



准教授
恵藤 浩朗

●研究室紹介

『海の“チカラ”で未来はもっと素敵になる』というコンセプトのもと、新しい価値を有する海洋建築物を提案し、海洋建築物の実現に向け技術的な課題を解決する研究活動を展開しています。そして「海」に求められる価値を最大限に発揮するデザインを考え、検証と改善を繰り返しくオリティの高いものを生み出す「デザイン思考」を身に付けた技術者の育成を念頭に指導します。皆で“楽しく”学べる、そんな研究室を君達と一緒に創れたらいいと考えています！

<研究室の主な年間行事予定>

①ゼミ生歓迎会(4月末予定)、②タイピングコンテスト(7月)、③卒研・修論中間報告会(夏季)、④体験航海(8月)、⑤夏合宿(9月)、⑥卒研・修論最終報告会+打ち上げ(2月)、⑦卒業式、⑧お誕生会(各月)

●卒業研究のテーマ

「海」を利用した新しい価値、新しい社会を構築する海洋建築物を提案し、海的作用を直接受けるそれらの実現に必要な設計関連技術の全てが研究対象です。

- 1) 海洋建築物のニューコンセプトの提案とその実現可能性に関する技術的な検討
- 2) 海洋構造物と海洋波との相互干渉影響などを考慮した運

動応答特性の把握と性能評価

- 3) 係留システムを含めた大型浮体式海洋建築物の構造解析や、構造安全性の確保とその評価
- 4) ジャケット構造物の損傷同定を目的とした振動解析と健全性評価システムの構築
- 5) GIS(地理情報システム)などデジタル情報技術を活用した海洋建築物の適地選定手法の開発
- 6) 数値計算による生態系ネットワークの解明 など

●ゼミナールのテーマ

ゼミでは、卒業研究や就職活動、大学院生活で役立つ海洋や建築の基礎をしっかりと身に付けます。

- 1) 海洋建築物に関する基礎的な知識を深めます
- 2) PCのスキル(Officeによるレポートの書き方、CADを使用したモデリング、GISなど)を習得します
- 3) プログラミングを基礎の基礎から学びます
- 4) 有限要素法の構造解析ソフト開発を通して基礎的な数値シミュレーション能力を身に付けます

●着手条件

「海建」が大好きなこと以外はありません。必要な知識やスキルは研究室所属した後、共に学びましょう。新しいコンセプトの海洋建築物やその構造計画や設計に興味があれば、まずは研究室に来てください！

最新情報は
こちら➡



Web



Instagram

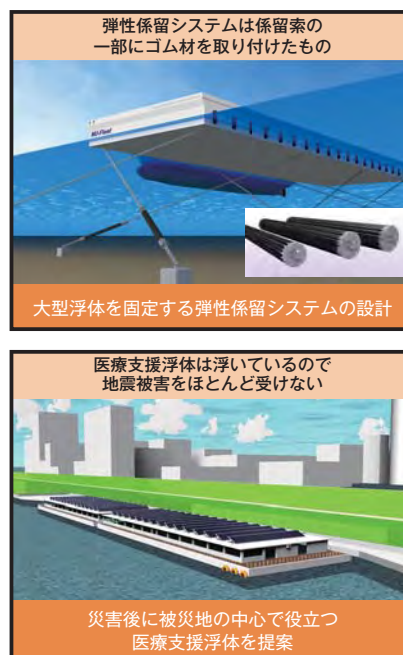
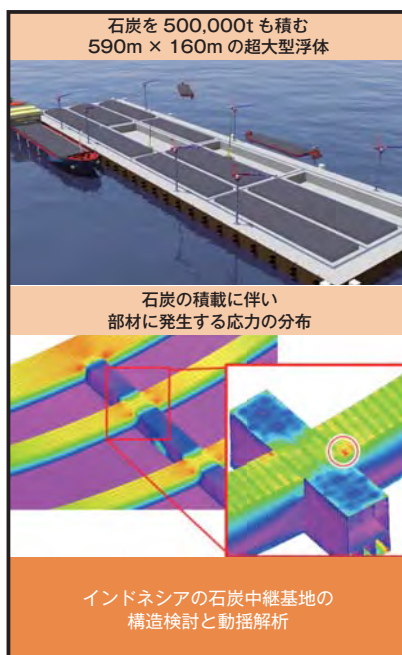
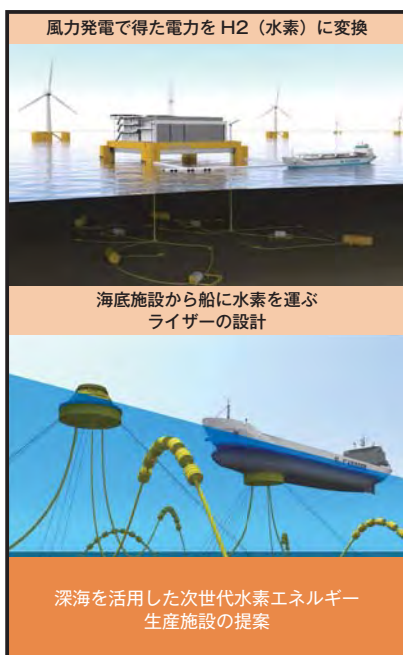


Facebook

Web : <https://etohiroaki4.wixsite.com/labo> (PCでの閲覧を推奨)

Instagram : https://www.instagram.com/marine_structural_design_lab/

Facebook : <https://www.facebook.com/msdl.nu/>



沿岸域工学研究室

1335 室

Teaching Staff

助教
野志 保仁特任教授
小林 昭男

●研究室紹介

本研究室の海洋建築工学科における位置付けは、「海洋環境工学系の研究室」です。海洋建築物に必要な良質な海洋空間の整備・創造や海洋空間の高度な利用方法に関わる技術を総合的に研究し、成果を実際のプロジェクトに反映できるように整備しています。さらに、(財)土木研究センターから客員教授を招聘し、企業からも首席客員研究員を招聘して、研究のレベル向上にも努めています。



現地調査の様子（ベトナム）

●ゼミナールのテーマ

就活・進学に役立つ建築や海洋の基礎を復習します。

- 1) 科学技術英語の基礎を学ぶ
- 2) 研究に役立つ参考書を共に学ぶ
- 3) 既往研究の解説を聞いて研究の方法を学ぶ
- 4) データの分析方法やレポートの書き方を学ぶ
- 5) 興味があれば模型実験や数値計算法を学ぶ
- 6) 海岸の状況を体験的に学ぶ調査に参加できる
- 7) 海岸保全施設の機能が理解できるようになる
- 8) 研究室員全員で行う千葉県沿岸での合宿で、現地調査の方法、海岸の環境問題が学ぶ
- 9) 懇親の場で先輩たちと楽しく食べて飲んで学ぶ場も提供する

●卒業研究のテーマ

卒業研究の主題は次の通りです。春に現地踏査を行い、これらの主題に沿った海浜を対象にして研究を行います。研究の成果は、必ず社会全体に役立ちます。



ゼミ生歓迎会の様子（昨年度はできていません）



海岸環境の修復活動（福岡県水島）

1. 良質な海洋建築空間の整備・創造

- 1) 海岸侵食の現況調査と原因究明および対策立案
- 2) 侵食された海浜の新しい修復技術の開発

2. 良好な海洋空間の利用方法

- 1) 海浜の過度な土地利用の弊害
- 2) 侵食対策によって創造された海浜の変遷

●研究室で挑戦したいこと

私たちの研究室は、新しいことに挑戦したいと考えることを推奨しています。実際に可能かどうかはわかりませんが、以下のことに挑戦したいと考えています。

- 1) 研究室の YouTube 立ち上げ
- 2) クラウドファンディングへの挑戦
- 3) 研究室全体で行うゲーム大会（ゲーム自体は決まっています）

●着手条件

海岸地形や海浜環境の再生・修復、防災工学に興味があり、当研究室のゼミナールを受講希望する学生は、研究室説明会に必ず出席して、個別面談（基本的には研究室の所属学生を含む雑談と考えてください）を受けてください。受講条件は、特にありません。ただし、研究室の行事や研究活動、就職活動に支障のない十分な成績と単位数を取得していると、有意義な研究活動ができるかと思えます。大学院進学については、個別面談時に相談してください。

沿岸環境防災研究室

1334 室

Teaching Staff



准教授
星上 幸良

●研究室紹介

本研究室では、「沿岸域での防災と環境保全の両立」を基本テーマとして、海岸付近の物理・自然環境と人との係わりについて考究することを目的としています。

そのため「現場を把握する」ことを重視し、様々なフィールドを観察し、地域を学び、物事の意味を理解することからはじめます。また、民間コンサルの経験を活かし、研究やワークショップを通じプレゼン能力やマネジメント力、課題解決力を鍛え、実社会で活躍できる人材育成を行います。さらに、地域や事業と連携した実際的な研究活動を通して、高度な専門性だけでなく、広い視野と客観性、バランス感覚を養います。

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、就活・進学のアドバイスに加えて、「ゼミ研」を通じ、卒業研究や実社会での活動に役立つ基礎的な素養を身に着けます。

- ・調査に参加し、現場の見方や環境問題を学びます
- ・広い視野と客観性を会得します
- ・コミュニケーション能力を向上させます
- ・バランス感覚と倫理観を育てます
- ・時間の使い方（マネジメント力）を学びます



フィールドワークの様子



小林・野志研究室との合同ゼミの様子

- ・プレゼン能力を鍛えます
- ・実環境に触れ、問題と課題を学びます
- ・防災、災害リスクについて正しく理解できます
- ・資格取得を支援します

●卒業研究のテーマ

国内外で課題を抱える沿岸域のフィールドを対象とし、以下のテーマで調査・研究を進めます。

【良好な環境保全を目指して】

- ・沿岸域での物理と環境に関する研究
- ・人為的要因による環境影響に関する研究
- ・ドローン等を活用した環境計測に関する研究

【安全安心な沿岸域を創造する】

- ・沿岸域での災害リスクに関する研究
- ・海岸保全の在り方や評価に関する研究
- ・沿岸の地域知、合意形成に関する研究

●着手条件

沿岸の環境保全や防災に興味のある学生、将来、ゼネコンや調査会社、コンサルタントへの就職を志望する学生、海や沿岸に“愛”のある学生なら、誰でもゼミナール・卒研に着手できます。



震災復興状況調査写真



ドローンを活用した調査の様子



▲星上研
youtube
チャンネルは
こちら！



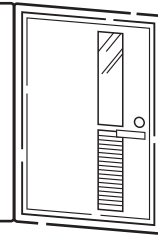
星上研 Instagram は
こちら！▶

HOSHIGAMIKEN_OFFICIAL

小林(直)研究室



Zoomによる有福温泉
リノベーション計画：
クライアントへの実施提案

令和2年度の
ゼミナール活動

令和2年度のゼミナール活動は、新型コロナウイルス感染対策に伴う入構制限により、オンラインもしくは船橋キャンパス内での限定的な活動となりました。しかしながら、各研究室では、オンラインでのディスカッションや教室での研究・設計作品発表会の開催、キャンパス内での調査擬似体験等、様々な工夫を凝らし活動を実施していました。ここでは、各研究室のゼミナール活動の様子を紹介します。

桜井寺口研究室



対面で行ったゼミ論発表会。研究室
全員が同時に入ることはできな
かったので、4年生はZoom中継で
参加しました。

佐藤研究室



ゼミナール(デザイン演習)の一コマ
です。3年生から卒研生、大学院生が
共同で意見を出し合い、コンペの
案を作成していく演習です。

親水工学研究室



ゼミ生グループでの水辺空間
活用コンペや竹建築の設計コン
ペを実施。設計コンペでは審査
員賞も受賞。

北嶋研究室



卒研・修論発表会の様子

福井研究室



3年生ゼミ発表会
(4年生はzoom参加)

居駒相田研究室



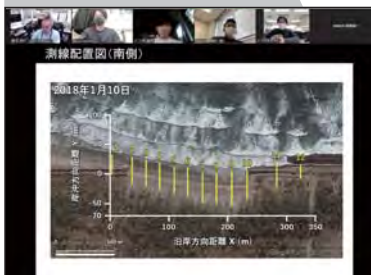
研究室内でのオンライン
研究発表会の様子

恵藤研究室



コロナのためリモートでの
ゼミ活動でしたが、みんな
頑張りました。

小林(昭)・野志研究室



ゼミ生毎に今年度の成果の
発表をしている様子

星上研究室



後期になり、研究室ゼミ生が
初めて直接対面！校外実習に
行けない代わりに構内実習

博士論文

+

修士論文

+

卒業論文・卒業設計

小林(直)研究室

修士論文

- ◆石井亮馬 浜崖後退抑止対策としてのサンドバック工法の効果検証
- ◆石川晃 文化財のオーセンティシティに係わる設計提案 ～江戸城再建をモデルケースとして
- ◆大関慶信 複合災害に対する建築的対応の提案 ～津波・土砂崩れ 複合災害を対象とした建築的設計
- ◆住吉文登 研究施設及び感染症病棟の設計提案 ～フローティングによるフレキシブルな防疫拠点の提案
- ◆館澤晃希 デジタルファブリケーションによる知的生産性に配慮した建築空間

卒業論文・設計

- ◆會田恵 生きる学び舎 ～高齢者が最後まで充実した生活を建設業界におけるデジタルファブリケーションの動向と展望 ～伝統的建築物及び宮大工の技術の存続へ向けて
- ◆王子涵 キッチンノファイバーを含め食品廃棄物の再利用を研究・生産施設の計画
- ◆古角虎之介 土のよる都市の帰帰 ～建設残土を用いた都市の新しい姿
- ◆澤田実和 記憶の貯蔵庫 ～地球人の築き上げた文明・記憶の保管場所
- ◆福田晃平 Architecture Is More ～抽象表現芸術の制作手法を建築設計に用いる
- ◆山戸善伸 半透明の遺産 ～地球的建築解を用いた足尾銅山転換計画
- ◆吉沼直輝 街に脈打つ支援施設 ～隙間による建築の創造
- ◆元木靖敬 寺院を活用したベッドタウン地域の生活充実化の提案
- ◆阿部鴻大 差木地の家
- ◆駒田太一 コルビジェの生涯 ～コルビジェは何故、最後に木造建築を残したのか

桜井・寺口研究室

博士論文

- ◆鷹島充寿 市民が望む調整池の多目的整備に関する研究

修士論文

- ◆海老原碧 離島振興に寄与するクルーズ船寄港の効果と課題に関する研究

卒業論文

- ◆牛島理子 河川空間における営業活動の実態および効果・課題に関する研究
～河川敷地占用許可を受けた事例を対象として
- ◆小川朋華 短時間で到達する津波に対する日本海側の自治体の対応に関する研究
～日本海沿岸4県に対するアンケート調査結果
- ◆小出将貴 港湾空間の一般開放に関する研究 ～市民の利用促進を目的に開放された事例を対象として
- ◆中村瑠里 「海の駅」の登録による効果と課題に関する研究
- ◆松浦咲希 水辺のゴミ問題解決にスポ GOMI が果たす役割に関する研究
- ◆山田匠人 ウォーターフロントの空間特性を活用したサイクリング環境整備に関する研究
- ◆大野駿英 都市における水災害対策の促進に関する研究

佐藤研究室

修士論文

- ◆黄起範 インドネシア共和国における水上交通を活用した首都移転計画の提案
～木質資源を活かした環境配慮型の複合庁舎の設計
- ◆勝部秋高 日本貨物鉄道隅田川駅地区における防災機能を有した再開発計画の提案
～鉄道車両基地を活用した複合施設の設計
- ◆篠原健 鎌倉市長谷地区における津波避難施設の提案
- ◆高橋遼太郎 日本におけるeスポーツ競技会場の提案 ～築地川アメニティ整備構想地区における複合施設の設計
- ◆根本一希 輸送用コンテナを用いたユニット型支援施設の設計 ～宿泊及び医療に対応した運用システムの提案
- ◆山本淳樹 秋田県横手市増田地区における水平分散型ホテルの提案 ～登録有形文化財を活用した宿泊施設の設計
- ◆山本壮一郎 北極点における浮体式活動拠点の提案 ～環境配慮型ホテルを併設した国際研究施設の設計

卒業論文・設計

- ◆石井健聖 謂れを解き、街を紡ぐ ～開渠による新居地上産業の再構築
- ◆石黒花梨 災いを転機に。～沈みゆくツバル島の新たな再編計画
- ◆上原のどか はげと暮らす ～国分寺崖線沿いの住宅の設計
- ◆大久保将吾 碧海の宝樹 ～石西礁湖における浮体式サンゴ養殖場の提案
- ◆神林慶彦 「たまり」の上に立つ
- ◆駒形史紗 第二の故郷・第二の家 ～離島(東間島)におけるウエディング住宅

- ◆佐藤駿介 生業に宿る ～小田原宿の構図と生業の関係性による再編
- ◆鈴木亜実 十駅十色 ～銚子電鉄と観光資源の再開発の提案
- ◆中野沙紀 地の昇華 ～ダム湖の水を利用した建築の提案
- ◆中村正基 海拔0メートル地帯水没計画 ～東京東部低地における川と共に生きる都市の提案
- ◆藤田大輝 蘇る器 ～東京産の建材を用いた設計より
- ◆中村数基 インドネシアの河川空間における持続可能な生活への転換 ～バハギア川の再生と創造

親水工学研究室(菅原)

修士論文

- ◆田中孝登 港湾地域における低・未利用貯木場水面の活用方策に関する研究
- ◆野中康太郎 特定都市河川流域に位置する立地適正化計画区域の耐水化に関する研究

卒業論文

- ◆今井晴貴 東久留米市落合川における湧水保全に関する行政と住民組織の係わりに関する研究
- ◆今村勇紀 海拔ゼロメートル地帯における大規模水害を想定した民間企業の水害対策の動向に関する研究 ～名古屋市5区と大阪市11区を対象として
- ◆梅津伶衣 「新建築」誌にみる木造建築物の建設背景及び位置付けに関する研究
～木造建築物の作品解説における頻出用語に着目して
- ◆大川実優 全国の港湾における港湾緑地の整備動向に関する研究
- ◆岡渥介 隅田川河岸の空間構成と土地利用から見た水辺開放の適地選定に関する研究
- ◆海保亨 立地適正化計画における水害リスクを考慮した区域設定と対応策の実態に関する研究
- ◆笹川遼 港湾水域における浮体建築物の建設経緯および関連法制度に関する研究
～横浜港の浮体式飲食施設を対象として
- ◆信山稜太 都市河川・運河における水際線整備に関する研究 ～東京都江東区の水際線の整備状況に着目して
- ◆長尾真紅梨 海拔ゼロメートル地帯における自主防災組織の水防活動実態に見る大規模水害を想定した水防活動・避難行動のモデル化に関する研究
- ◆長谷川演恒 水門内水域の活用に向けた都市住民の河川環境評価に関する研究
- ◆片平こころ 渡邊朝陽 琵琶湖周辺の水郷集落における水利用・管理の実態に関する調査研究
～その1 住民生活に見る水利用
～その2 洗い場の設置形態及び利用形態と水路の管理形態
- ◆小泉里沙 港湾地域における貯木場水面の全面埋立地の利用実態に関する研究

山本研究室

修士論文

- ◆永井勇輝 地域水産業における中高齢者の就業率向上に関する研究

卒業論文

- ◆落合淳貴 洪水・内水氾濫発生時における高齢者の垂直避難に関する研究

北嶋研究室

修士論文

- ◆今津祥地郎 柱主筋および補強筋が異なるRC造十字形柱梁接合部の挙動に関する研究
- ◆川北章悟 海底地すべりの起因となる水膜の形成要因に関する研究 ～堆積物の引張強度を考慮した水膜形成条件
- ◆菊地謙太 鋼構造建物に組み込まれた折返しプレースの必要性能に関する研究
- ◆矢部春恵 P-Δ効果の影響を考慮した天然ゴム系積層ゴム支承の力学的挙動に関する研究
- ◆巨健太郎 等価線形化法による制震構造設計法に関する研究 ～縮約1自由度系と多自由度系の整合性に関する検討

卒業論文

- ◆天谷光・黒沼亜美 滑り基礎構造建物の2方向振動台実験
～その1 試験体および実験概要
～その2 実験結果
- ◆加藤百華 鉄骨造建物を対象とした制震構造設計スタディー
- ◆小泉晶紀・根本通 RC造十字形柱梁接合部の実験に関する調査研究
～その1 試験体諸元と実験結果概要
～その2 設計因子と最終破壊性状の関係
- ◆駒榮海地・山本あすみ 折返しプレースの円形鋼管芯材の局部座屈に関する実験的研究
～その1 実験概要および単調圧縮荷重実験
～その2 正負交番繰返し荷重実験

博士論文



修士論文



卒業論文・卒業設計

- ◆清水将喜・森川葵 最上階に設置した加速度計の観測記録を用いた損傷評価方法
～その1 評価方法および検討対象建物概要
～その2 検討対象建物の解析概要と解析結果および損傷評価結果
- ◆平野秀幸・山口生成 セブ市のフラットプレート構造建物を対象とした耐震性能評価および制震補強に関する研究
～その1 建物概要および耐震性能評価
～その2 制震補強設計およびパンチング破壊の検討
- ◆松壽浩晴 木質フィレンディールトラスとテンション材のハイブリッド構造に関する実験的研究

近藤研究室

修士論文

- ◆遠藤優太 円筒形タンク内の非線形液面動揺に関する実験及び数値的研究
- ◆山田涼介 高レイノルズ数域での2次元円柱の渦励振に関する数値的研究

卒業論文

- ◆李濟媛 軸対称円筒シェルの静力学的性状に関する有限要素解析
- ◆今村亮太 円筒形貯槽タンク内のスロッシング及びスワーリング応答解析
- ◆岩本陸 都市空間におけるヒートアイランド現象の数値計算
- ◆佐藤拓己 高レイノルズ数域の2円柱の流体力学振動に関する数値解析
- ◆柴崎比奈乃 入射角を有する正方形円柱の渦励振解析
- ◆鈴木桃子 近接した並列2円柱の渦励振解析
- ◆寺尾航希 近接した直列2角柱のギャロッピング解析
- ◆宮本大輝 並列2角柱の流体力学振動に関する数値シミュレーション
- ◆有園岳拓 低レイノルズ数域での単一円柱周りの流動変化に関する数値解析
- ◆高橋亮 矩形水槽内のスロッシングに関する数値解析
- ◆戸崎裕太 低レイノルズ数域での単一円柱の渦励振現象に関する数値解析
- ◆茂木彬 高レイノルズ数域での単一円柱の渦励振現象に関するLES解析
- ◆袁慕樵 低レイノルズ数域での直列2円柱の流体力学特性に関する数値計算
- ◆蔡思旭 低レイノルズ数域での直列2角柱の流体力学特性に関する数値計算

福井研究室

修士論文

- ◆岡崎佑紀 プレストレスト木質小梁の長期力学的挙動に関する実験的研究
- ◆岡田和俊 光ファイバーセンサーによるPC梁の付着応力と曲げひび割れ幅の評価方法に関する実験的研究
- ◆苅部航佑 PCaPC骨組の地震時及び地震終了時の力学的挙動に関する解析的研究

卒業論文

- ◆鍵山颯馬 地震後における第1種PC骨組の継続使用を可能とする条件
- ◆廣原彩花 PCaPC柱部材の滑りせん断耐力に関する解析的研究
- ◆小川智輝・増田雄太・安田真菜 アンボンドPCaPCの曲げ耐力式に対する検討
～その1 既往のせん断力に対する検討
～その2 曲げ耐力式の概要と破壊モード別の精度の検討
- ◆奥祐太郎・御園生大輝・久良木霧・佐俣夏子 PCaPC圧着梁のせん断抵抗機構に関する実験的研究
～その1 実験概要
～その2 実験結果
- ◆久良木霧・奥祐太郎・佐俣夏子・御園生大輝 柱降伏を想定するPCaPCレンコン定着工法の力学的挙動に関する実験的研究
～その1 実験概要
～その2 実験結果
- ◆下茂大和・丹野剛大 光ファイバーセンサーを用いて鉄筋の付着応力分布を算出する手法
～その1 既往の研究と本実験で使用するデータについて
～その2 追加実験と鉄筋の付着応力分布の算定
- ◆野澤樹 プレストレス導入時における集成材の許容支圧応力の提案
- ◆渡辺剛・笈知将也 PC部材内におけるPCストランドのひずみ計測手法
～その1 実験概要
～その2 実験結果

居駒・相田研究室

修士論文

- ◆佐野敦紀 浮体式構造物の運動による係留索挙動の動的な非線形性に関する研究
- ◆史岳川 浮体を構成する壁に囲まれた水塊の挙動と流体特性に関する基礎的研究
- ◆鈴木雅洋 有限長回転円柱の流体力学特性と端部影響に関する実験的研究

- ◆平井翔太 振動水柱型波力発電装置の空気室の取り扱いにおける非線形影響と縮尺影響に関する基礎的研究
- ◆古矢祥一朗 超大型浮体に搭載した空気室が波漂流力特性に与える影響に関する基礎的研究
- ◆守津颯哉 垂直軸型風車を搭載したムーンプールを有するボンツーン浮体の風・波共存場における運動応答特性に関する基礎的研究

卒業論文

- ◆秋本将司 振動水柱型波力発電装置の空気室特性の非線形性に関する実験的研究
- ◆小野寺綾希 航空写真を用いた東京湾における作業船の係留実態調査研究
- ◆北濃一樹 作業船の津波中漂流挙動に関する実験的研究
- ◆佐藤幹明 積載荷重の小さなエアクッション浮体の運動応答特性と利用法に関する基礎的研究
- ◆武川芽生 津波漂流物の衝突荷重に与える流体力及び喫水の影響に関する基礎的研究
- ◆橋本尚典 ムーンプールの規模が流体力及び運動特性に与える影響に関する基礎的研究
- ◆茂筑雄大 2浮体間のギャップが流体荷重に与える影響に関する基礎的研究
- ◆末續貴大 東京湾内の係留された作業船団に襲来する津波に関するシミュレーションを用いた研究

恵藤研究室

修士論文

- ◆下本瀬夏 首都直下地震における主要医療施設との連携を考慮した災害時医療支援浮体の適地選定に関する研究
- ◆関口諒 弾性係留索を用いた係留システムの大規模石炭貯蔵浮体への適用性に関する基礎的研究
- ◆西河内亮 有限要素法によるジャケット式海洋構造物の損傷予測に関する基礎的研究

卒業論文

- ◆稲生慎太郎・小岩立汰・成松青空 ジャケット式海洋構造物の固有振動モードによる損傷箇所の推定
- ◆岩田慧悟・高野大輝 波強制力が作用する超大水深型SLWRの応答特性
- ◆塩島宇晶・村山裕樹 GISを用いた災害時における主要病院の受入れ人数の算定に関する基礎的研究
- ◆鈴木湧大・立原直樹・盛一佑太 弾性係留システムの係留条件の変化に伴う大型石炭貯蔵浮体の運動応答特性
- ◆西田阿偉斗・石王丸直哉 東京湾における二枚貝生態系ネットワークの解明に関する基礎的研究～浮遊幼生の遊泳パターン解析と残存稚貝の成長モデルの構築について
- ◆諸橋健太郎 運用時を想定した大型石炭貯蔵浮体の構造特性

小林(昭)・野志研究室

修士論文

- ◆関根雅人 全方位から波の作用を受ける島で形成された砂州の変形予測に関する研究
- ◆石井亮馬 浜崖後退抑止対策としてのサンドバック工法の効果検証

卒業論文

- ◆青山和輝・石井優気 海浜植生の緑被率に伴う飛砂量の変化に関する研究
- ◆入江直樹 粒径毎のバーム高および移動限界水深の解明に関する研究
- ◆関口直剛・田邊希文 城崎海岸の季節変動に関する研究
- ◆高橋勇多・樽井寛 サンゴ礁海岸における供給源減少に伴う海岸侵食に関する研究
- ◆中田祐希 人為的改変を伴った河口の閉塞機構に関する基礎的研究
- ◆阿部隼大・林正太・星盛子岳 光瀬圭一郎 360度写真での景観評価方法の検証とその効果の検討
- ◆稲葉勇・三田周平 漂着ゴミの集積機構に関する基礎的研究
- ◆武藤玲風 総合的土砂管理のためのダム堆砂調査に関する研究
- ◆小林拓斗 海岸変形予測のためのデータベース構築に関する研究

星上研究室

卒業論文

- ◆大島一希・掛札捷人・高須健巨 津波避難困難地域における避難計画の最適化に関する研究～千葉県勝浦市興津地区の例
- ◆押見青幹・金澤拓磨 UAVを活用した海岸地形測量の基礎的研究
- ◆黒谷雄一・桑原拓己・須藤遠太郎 海水浴客の津波避難に関する基礎的研究～砂礫浜での歩行速度変化
- ◆佐藤竜・中川陸・西野巧人 海水浴客の津波避難リスクを考慮した避難計画に関する研究～千葉県勝浦市守谷海水浴場の例
- ◆鶴岡正照・服部風彦 津波自主避難計画策定の引きに関する基礎的研究

教員研究業績 研究室活動業績

小林(直)研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆ 館澤晃希：これからの木材について、2020 日本建築学会学術講演会関東大会建築デザイン発表会、2020.09
- ◆ 小山田駿志：BORDERLESS ARCHITECTURE 国境におけるあそび場の提案、2020 日本建築学会学術講演会関東大会建築デザイン発表会、2020.09
- ◆ 廣田知輝：サハラのお恵、2020 日本建築学会学術講演会関東大会建築デザイン発表会、2020.09
- ◆ 住吉文登：研究機能及び感染症隔離検査機能を備えた新しい医療施設の提案、第 64 回理工学部学術講演会、2020.12
- ◆ 館澤晃希：船橋キャンパス 13 号館における知的生産性向上に関する研究 EV ホールの新しい利活用、第 64 回理工学部学術講演会、2020.12
- ◆ 石川 晃：文化財のオーセンティシティに係わる研究と設計提案（江戸城再建をモデルケースとして）、第 64 回理工学部学術講演会、2020.12
- ◆ 大関慶信：災害危険地域における建築的対応の研究と提案（土砂崩れの危険地域をモデルケースとして）、第 64 回理工学部学術講演会、2020.12

所属学生の受賞等

- ◆ 古角虎之介・小山田駿・廣田知輝・横畑佑樹：IA・テスクチャレンジ設計コンペ「山脇賞」、主催：(公社)日本建築家協会北海道支部、(株)テスク、2020.07
- ◆ 福田晃平・水口隆・佐藤宏樹（芝浦工大）：第 7 回宇宙建築賞 3 位入賞、主催団体 宇宙建築学サークル TNL、2020.12

- ◆ 古角虎之介・山戸善伸・神林慶彦・中村正基：歴史的再編空間コンペディション「最優秀 SNOU 賞」「ベスト 16」、主催：歴史的空間再編学生コンペ実行委員会、2020.11

学外活動(講演・講義等)

- ◆ 島根県江津市有福温泉全体計画再生プロジェクト提案、提案先：江津市・有福温泉活性化検討委員会・島根県浜田県土整備事務所・コンサルタント株式会社 Catalyst・江津青年会議所 他、2020.09（以下氏名・提案タイトル）
- ◆ 住吉文登・元木靖敬・王子涵・小林真子・中泉拓己・増田悠玖：彩生への小道～陶芸と茶道で街をつなぐ～
- ◆ 古角虎之介・安達祥人・佐藤大和・津下純也・藤本篤紀・西遼：有福温泉古民家改修プロジェクト
- ◆ 小山田駿志・澤田実和・謝雨辰・越原瑞樹・齋藤瞬汰：福のハナレ
- ◆ 石川晃・吉沼直輝・會田恵・渡邊愛・長谷部悠：有福の顔
- ◆ 館澤晃希・廣田知輝・福田晃平・伊東龍哉・田中日那子：有福温泉再生計画-観光業をはじめとする経済再興をねらった陶芸体験施設の提案-
- ◆ 服部立・山戸善伸・佐藤満秀・三好將斗：有福に芽生える -有福をデジファブの街として再興する-

学外活動(委員会活動等)

- ◆ 日本建築学会・歴史的大規模木造宿泊施設の計画検討小委員会
- ◆ 太陽エネルギーデザイン研究会 理事

桜井・寺口研究室

審査付論文

- ◆ 寺口敬秀・桜井慎一・池ヶ谷典宏：砲台跡の利活用方法に関する研究 - 東京湾要塞を対象として -、土木学会論文集 D3 (土木計画学)、Vol.75 No.6、pp.1_207-1_218、2020.4
- ◆ 唐崎雄亮・桜井慎一・寺口敬秀：鉄道線路が津波避難に及ぼす影響に関する研究、日本沿岸域学会誌、Vol.33 No.2、pp. 43-52、2020.9
- ◆ 倉田直樹・桜井慎一・寺口敬秀：津波避難ビルの建築を誘導する条例・制度に関する研究、日本建築学会計画系論文集、第 85 巻 第 777 号、pp.2479-2489、2020.11

口頭発表・ポスター発表

- ◆ 寺口敬秀・桜井慎一・齋藤征大：市町村連携による避難困難地区の解消に関する研究 - 平成 30 年 7 月豪雨被災地を対象として -、第 61 回土木計画学研究発表会・春大会講演集 Vol.61、講演番号 P101、2020.6
- ◆ 海老原碧・桜井慎一・寺口敬秀・竹野巧人：長距離フェリーの利用促進に関する研究 - 航海時間が 8 時間以上の航路を対象として -、第 61 回土木計画学研究発表会・春大会講演集 Vol.61、講演番号 P125、2020.6
- ◆ 鷹島充寿・桜井慎一・寺口敬秀：調整池の多目的改修整備に関する研究 - 政令指定都市および中核市における整備事例を対象として -、2020 年度日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集 2020 (都市計画)、pp.645-646、2020.7
- ◆ 倉田大河・桜井慎一・寺口敬秀・海老原碧：ウォーターフロントにおけるオープントラスの利用実態に関する研究、2020 年度日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集 2020 (海洋建築)、pp.9-10、2020.7
- ◆ 大野駿英・桜井慎一・寺口敬秀・唐崎雄亮：ウォーターフロントにおける自転車利用の促進に関する研究 - お台場周辺におけるシェアサイクル利用者を対象として -、2020 年度日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集 2020 (海洋建築)、pp.11-12、2020.7
- ◆ 小出将貴・桜井慎一・寺口敬秀・海老原碧：釣り振興モデル港に指定された港湾の整備実態に関する研究、2020 年度日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集 2020 (海洋建築)、pp.15-16、2020.7
- ◆ 寺口敬秀・桜井慎一・鈴木諒・海老原碧：みなとオアシスへの登録が港で実施されるイベント活動に与える影響、2020 年度日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集 2020 (海洋建築)、pp.17-18、2020.7
- ◆ 海老原碧・桜井慎一・寺口敬秀：スーパーヨットの寄港に伴う地域への効果に

関する研究、2020 年度日本建築学会大会(関東)学術講演梗概集 2020 (海洋建築)、pp.19-20、2020.7

- ◆ 小川朋華・桜井慎一・寺口敬秀・海老原碧：日本海側の津波避難ビルの整備状況に関する研究 - 地図分析に基づく設置状況の調査 -、令和 2 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.504-505、2020.12
- ◆ 松浦咲希・桜井慎一・寺口敬秀・海老原碧：水辺のゴミ問題解決にスポ GOMI が果たす役割に関する研究、令和 2 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.506-507、2020.12
- ◆ 寺口敬秀・桜井慎一・岡田寛冬：治水施設の多目的利用に関する研究 - ダムの湖面利用を対象とした調査 -、第 35 回日本観光研究学会全国大会学術論文集、pp.153-156、2020.12

著書・執筆等

- ◆ 桜井慎一：ウィズコロナ時代の沿岸域(掲載して福となす)、日本沿岸域学会、日本沿岸域学会誌 Vol.33 No.3、2020.12

学外活動(委員会活動等)

- ◆ 桜井慎一：船橋市・開発審査会 会長
- ◆ 桜井慎一：横須賀市・西地区漁港海岸整備計画策定検討委員会 委員長
- ◆ 桜井慎一：船橋市・まち・ひと・しごと創生懇話会 委員
- ◆ 桜井慎一：船橋市・JR 南船橋駅南口市有地活性化専門委員会 委員長
- ◆ 桜井慎一：館山市・建設工事総合評価委員
- ◆ 桜井慎一：館山市・第三中学校改築工事基本設計業務委託提案審査委員会 委員
- ◆ 桜井慎一：文部科学省科学技術動向研究センター・科学技術専門家ネットワーク専門調査員
- ◆ 桜井慎一：日本沿岸域学会 理事
- ◆ 桜井慎一：日本建築学会・海洋建築本委員会 幹事
- ◆ 桜井慎一：日本建築学会・海洋建築津波等防災小委員会 主査
- ◆ 寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築津波等防災小委員会 幹事

研究助成・受託研究

- ◆ 桜井慎一：文部科学省科学研究費・基盤研究(C)、東日本におけるクルーズ客船の寄港地選定

教員研究業績
研究室活動業績

佐藤研究室

審査付論文

- ◆ 佐藤信治：観覧空間と連携するキーパースペースと展示水槽との規模関係について-水族館における観覧空間の分析(2)-、日本建築学会技術報告集 27(65)、pp.333-338、2021.02

口頭発表・ポスター発表

- ◆ 高橋遼太郎・佐藤信治：世界各地におけるeスポーツ会場の現状について、日本建築学会大会学術講演梗概集(関東)、pp.581-582、2020.9
- ◆ 根本一希・佐藤信治：輸送用コンテナを用いた施設形態及び用途の研究その1、日本建築学会大会学術講演梗概集(関東)、pp.821-822、2020.9
- ◆ 篠原 健・佐藤信治：日本全国における津波避難タワーの現状について-南海トラフ巨大地震発生によって発生する巨大津波の被害-、日本建築学会大会学術講演梗概集(関東)、pp.877-878、2020.9
- ◆ 勝部秋高・佐藤信治：鉄道車両基地における災害対策施設の土地利用の検討、日本建築学会大会学術講演梗概集(関東)、pp.769-770、2020.9
- ◆ 山本淳樹・佐藤信治：重要伝統建造物保存地区における親水空間の活用に関する調査、日本建築学会大会学術講演梗概集(関東)、pp.891-892、2020.9
- ◆ 渡邊康介・佐藤信治：スラム文化による団地の侵蝕、日本建築学会大会・建築デザイン発表会梗概集、pp.140-141、2020.9
- ◆ 横畑佑樹・佐藤信治：切断することそれは、繋ぐこと、日本建築学会大会・建築デザイン発表会梗概集 pp.228-229、2020.9
- ◆ 西村寿々美・佐藤信治：私があなたに贈るもの、日本建築学会大会・建築デザイン発表会梗概集 pp.232-233、2020.9
- ◆ 中村美月・佐藤信治：東京暗渠再生、日本建築学会大会・建築デザイン発表会梗概集 pp.236-237、2020.9
- ◆ 小林陽太・佐藤信治：証跡の蘇生、日本建築学会大会・建築デザイン発表会梗概集 pp.394-395、2020.9
- ◆ 佐藤駿介・佐藤信治：小田原漁港周辺における現代版小田原宿の提案、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.418-419、2020.12
- ◆ 佐藤信治・山本壮一郎：極地における浮体式環境研究プラットフォームの設計-北極海上越冬基地の施設計画-、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.420-421、2020.12
- ◆ 石井健聖・佐藤信治：開渠による新宿地上産業の再構築、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.422-423、2020.12
- ◆ 根本一希・佐藤信治：海運輸送用コンテナを用いた施設形態及び用途の研究、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.424-425、2020.12
- ◆ 佐藤信治・黄 起範：インドネシア首都移転計画において水上交通を主軸とした場合の研究、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.426-427、2020.12
- ◆ 高橋遼太郎・佐藤信治：世界各地におけるeスポーツ会場の現状について、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.428-429、2020.12
- ◆ 勝部秋高・佐藤信治：鉄道車両基地における災害対策施設の土地利用の検討、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.430-431、2020.12
- ◆ 篠原 健・佐藤信治：日本全国における津波避難タワーの現状について、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.432-433、2020.12
- ◆ 西村寿々美・大久保将吾・中野沙紀・上島萌夢・川内俊太郎・勝部秋高・佐藤信治：小坂時間旅行、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.434-435、2020.12
- ◆ 中村数基・佐藤信治：インドネシアの河川空間における持続可能な生活への転換、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.436-437、2020.12
- ◆ 渡辺真理恵・黄 起範・神林慶彦・上原のどか・太田優人・森山美波・佐藤信治：「ゆく河の流れは絶えずして、」-治水機能と河川利用の提案-、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.438-439、2020.12
- ◆ 大久保将吾・佐藤信治：石西礁湖におけるサンゴ礁再生、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.440-441、2020.12

- ◆ 鈴木亜実・佐藤信治：銚子電鉄と観光資源の再開発の提案、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.442-443、2020.12
- ◆ 中村正基・佐藤信治：東京東部低地における避難施設の計画、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.444-445、2020.12
- ◆ 神林慶彦・佐藤信治：都市の保水力向上に対する「雨のみち」の提案、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.446-447、2020.12
- ◆ 上原のどか・佐藤信治：国分寺崖線のはけを利用した住宅の設計、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.448-449、2020.12
- ◆ 駒形史紗・佐藤信治：形式に捉われない、日本人らしい結婚式の提案、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.450-451、2020.12
- ◆ 石黒花梨・佐藤信治：海底都市-沈みゆくツバル島の新たな住まいの提案-、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.452-453、2020.12
- ◆ 中村美・佐藤信治・山本壮一郎・中村正基・山本遙南・石本かえで・田畑 輝：秋田県北部における雪室と温泉を使った寒暖を利用する住宅の提案、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.454-455、2020.12
- ◆ 横畑佑樹・佐藤信治・根本一希・藤田大輝・中村数基・有馬成美・小林攻基：豪雪地帯における水路を活用した雪の濾過ネットワーク、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.456-457、2020.12
- ◆ 中野沙紀・佐藤信治：ダムと地域の共生、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.458-459、2020.12
- ◆ 小林陽太・佐藤駿介・石黒花梨・梅原久美子・永野千紘・佐藤信治：「銭湯」を用いた地域コミュニティ再編の提案、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.460-461、2020.12
- ◆ 藤田大輝・佐藤信治：インドネシアにおける濾過建築を用いた都市の再生、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.462-463、2020.12
- ◆ 山本淳樹・佐藤信治：歴史的風致を残す地区に置ける観光地化の計画-重要伝統建造物群保存地区-秋田県増田町を例に-、第64回、日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.464-465、2020.12

著書・執筆等

- ◆ 編者：海洋建築デザイン教材研究会 著者：佐藤信治、他5名と共著、新訂第二版 空間デザインを学ぶ、(株)DTP出版、pp.03-22、28、32、51、59、65-69、71-74、103-114、2020.9

受賞等

- ◆ 佐藤信治・アトリエK：第五位、国家海洋戦略新据点 烟台八角湾海洋经济创新区 样板区规划与建筑方案设计コンペ

所属学生の受賞等

- ◆ 横畑佑樹・根本一希・中村数基・藤田大輝・小林功基・有馬成美：最優秀作品賞、雪代を澄ます、土木デザイン設計競技景観開花。2020(第16回)、東北大学 工学部 建築・社会環境工学科 景観研究室、景観開花。実行委員会、2020.11
- ◆ 中村美月：最優秀作品(1位)、東京暗渠再生、赤レンガ卒業設計展2020(第17回)、2020.3
- ◆ 横畑佑樹：最優秀賞、審査員特別賞、切断すること、それは繋ぐこと、JIA 全国大会参加権獲得、第32回千葉建築学生賞、2020.3
- ◆ 中村正基・山本壮一郎・中村美月・山田遥南・石本かえで・田畑輝：優秀賞、つめたさとあたたかさを棲み分ける家-雪室と温泉を使った 寒暖を身方にする住まい-、木の家設計グランプリ2020(第6回)「自然を身方にする家」、2020.9
- ◆ 中村正基・神林慶彦・古角虎之介(小林研)・山戸善伸(小林研)：最優秀 SNOU 賞、都市の商住共棲-商店街における商店と住宅の新たな暮らし-、歴史的空間再編コンペティション2020(第9回)、歴史的空間再編学生コンペ実行委員会、2020.11
- ◆ 根本一希・中村美月・渡邊康介：準グランプリ(二位)、エレメントが動く時-廃線を活用したインフラストラクチャがつくる新たな住まい方-、歴史的空間再編コンペティション2020(第9回)、歴史的空間再編学生コンペ実行委員会、2020.11

親水工学研究室

審査付論文

- ◆ 田中孝登・菅原遼・畔柳昭雄：東京都海上公園の指定管理者による水辺空間の利用・管理の実態に関する調査研究、ランドスケープ研究 83 巻 5 号、pp.527-532、2020.5
- ◆ 土橋大輔・菅原遼・畔柳昭雄：港湾における貯木場水面の利用実態に関する基礎的研究、沿岸域学会誌 Vol.33 No.1、pp.57-62、2020.6
- ◆ 川口直也・菅原遼・畔柳昭雄：東京都江東 5 区における民間企業の立地特性と水害対策の動向に関する調査研究、沿岸域学会誌 Vol.33 No.1、pp.63-68、2020.6
- ◆ Ryo Sugahara, Akio Kuroyanagi : Study on Utilization Method of Low Unused Area in Urban Coastal Area, Proceedings of the ASME2020 39th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering OMAE2020, pp.1-6、2020.8
- ◆ 田島佳征・畔柳昭雄：「海難れ」記事への書き込みコメントから見た海水浴の減少要因、環境情報科学術研究論文集 34、pp.7-12、2020.11
- ◆ 武田竜治・菅原遼・畔柳昭雄：琵琶湖周辺の水郷集落に見る湧水の利用管理の特徴 - 滋賀県米原市醒ヶ井地区を対象として -、環境情報科学術研究論文集 34、pp.240-245、2020.11

口頭発表・ポスター発表

- ◆ 武田竜治・菅原遼・畔柳昭雄：水と緑の公私計画論に関する研究 その 14- 琵琶湖周辺の水郷集落の立地分布と地域特性に関する調査研究 -、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 環境工学、pp.1669-1670、2020.9
- ◆ 片平こころ・渡邊朝陽・武田竜治・菅原遼・畔柳昭雄：水と緑の公私計画論に関する研究 その 15- 米原市醒ヶ井地区における水路形態と形状の特徴 -、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 環境工学、pp.1671-1672、2020.9
- ◆ 渡邊朝陽・片平こころ・武田竜治・菅原遼・畔柳昭雄：水と緑の公私計画論に関する研究 その 16- 米原市醒ヶ井地区の水利施設の形態と利用管理の特徴 -、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 環境工学、pp.1673-1674、2020.9
- ◆ 今村勇紀・山本陸人・菅原遼・畔柳昭雄：東京都江東 5 区における民間企業の立地分布と水害対策の動向に関する調査研究、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 都市計画、pp.609-610、2020.9
- ◆ 笹川遼・今井晴貴・菅原遼・畔柳昭雄：佐渡島における舟小屋の現状に関する調査研究 - その 3 加茂湖湖畔における護岸整備と舟小屋の関係性 -、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 海洋建築、pp.5-6、2020.9
- ◆ 今井晴貴・笹川遼・菅原遼・畔柳昭雄：佐渡島における舟小屋の現状に関する調査研究 - その 4 佐渡島沿岸部における舟小屋の立地分布と残存状況 -、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 海洋建築、pp.7-8、2020.9
- ◆ 菅原遼・畔柳昭雄：オレゴン州ポートランド市における水上住居の建設過程と立地特性に関する調査研究、第 28 回海洋工学シンポジウム、OES828-041、2020.9
- ◆ 土橋大輔・菅原遼・畔柳昭雄：カナダ・バンクーバーの水際地域にみる居住利用を中心とした水面利用動向に関する調査研究、第 28 回海洋工学シンポジウム、OES828-060、2020.9
- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：海洋空間の有効利用に見る海洋建築物の動向、第 28 回海洋工学シンポジウム、OES828-035、2020.9
- ◆ 今村勇紀・菅原遼・畔柳昭雄：海抜ゼロメートル地帯における大規模水害を想定した民間企業の水害対策の動向に関する調査研究 - 名古屋市・大阪市を対象として -、第 64 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.466-467、2020.12
- ◆ 岡混介・菅原遼・畔柳昭雄：隅田川流域の水辺開放に向けた空間構成と背後地の土地利用形態に関する研究、第 64 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.468-469、2020.12
- ◆ 笹川遼・菅原遼・畔柳昭雄：浮体式建築物の建設経緯および関連法制度に関する研究 - 横浜港の浮体式飲食施設を対象として -、第 64 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.470-471、2020.12
- ◆ 長尾真紅梨・菅原遼・畔柳昭雄：海抜ゼロメートル地帯における大規模水害を想定した自主防災組織の水害対策の実施状況に関する研究 - 東京都江東 5 区を対象として -、第 64 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.472-473、2020.12

- ◆ 長谷川演恒・菅原遼・畔柳昭雄：亀島川の水辺開放に向けた河川環境に対する地域住民の意識調査、第 64 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.474-475、2020.12
- ◆ 今井晴貴・菅原遼・畔柳昭雄：湧水を水源とする中小河川に見る空間整備動向と組織団体の係わりに関する研究 - 東久留米市落合川を対象として -、第 64 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.476-477、2020.12
- ◆ 小泉里沙・田中孝登・菅原遼・畔柳昭雄：内港地区における低未利用水面の活用方策に関する研究 - その 1 全国の貯木場水面における立地特性と利用状況に着目して -、第 64 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.478-479、2020.12
- ◆ 田中孝登・小泉里沙・菅原遼・畔柳昭雄：内港地区における低未利用水面の活用方策に関する研究 - その 2 東京港の貯木場水面にみる水陸の関係性と機能転換のプロセスに着目して -、第 64 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.480-481、2020.12
- ◆ 海保亨・野中康太郎・菅原遼・畔柳昭雄：立地適正化計画における水害リスクを考慮した誘導区域の設定方法に関する研究 - その 1 特定都市河川流域の自治体における水害履歴と水害対策の動向 -、第 64 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.482-483、2020.12
- ◆ 野中康太郎・海保亨・菅原遼・畔柳昭雄：立地適正化計画における水害リスクを考慮した誘導区域の設定方法に関する研究 - その 2 特定都市河川流域の自治体における居住誘導および都市機能誘導区域の水害リスク -、第 64 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.484-485、2020.12
- ◆ 渡邊朝陽・片平こころ・武田竜治・菅原遼・畔柳昭雄：高島市上小川地区における人と水路の係わりに関する調査研究 - その 1 地区内の水路形態と水利施設の設置形態に着目して -、第 64 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.486-487、2020.12
- ◆ 片平こころ・渡邊朝陽・武田竜治・菅原遼・畔柳昭雄：高島市上小川地区における人と水路の係わりに関する調査研究 - その 2 世代および居住年数に応じた水路・水利施設の利用状況に着目して -、第 64 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.488-489、2020.12

著書・執筆等

- ◆ 菅原遼：水辺の公共空間の占用をめぐる実態と課題、都市問題 第 111 巻 第 4 号、pp.52-62、2020.4
- ◆ 菅原遼：水上生活の可能性、建築ジャーナル 第 1302 号、pp.26-29、2020.4
- ◆ 畔柳昭雄：水屋・水塚をとおして見る水防の知恵と文化、河川文化 第 90 号、pp.8-9、2020.6
- ◆ 畔柳昭雄：素材としてのアルミの映え、建築雑誌 第 136 集 第 1746 号、p.32、2021.2

作品等

- ◆ 菅原遼：Bamboo Pergola、大和駅駅前広場、2020.8
- ◆ 菅原遼：Bamboo Pergola、Park(ing) Day2020 大和駅南口ロータリー、2020.9
- ◆ 菅原遼：mizube bar、横浜市初葉日商店会 道路占用実証実験、2020.9
- ◆ 菅原遼：Bamboo Dome、八千代どーんと祭、2020.10
- ◆ 菅原遼：mizube bar、はつこひ市場、2020.10
- ◆ 菅原遼：mizube bar、運河チャレンジ 2020、2020.11
- ◆ 菅原遼：mizube bar、水辺の大実験 フィットネスクロード汐浜運河、2020.11
- ◆ 菅原遼：mizube bar、黄金町クリスマスバンマルシェ、2020.12
- ◆ 菅原遼：mizube bar、FOOD ART STATION -Sense of Wonder-、2021.3
- ◆ 菅原遼：mizube bar、ヨルノヨ 2021 にむけた水辺演出開発実験、2021.3

所属学生の受賞等

- ◆ 山本陸人：日本建築学会「2020 年度優秀卒業論文賞」、海抜ゼロメートル地域における大規模水害を想定した施設の整備方策に関する調査研究 - 東京都江東 5 区における域内垂直避難を想定した避難所の整備動向と浸水リスク -、2020.9
- ◆ 植松百花・蛇子明日香・小田瑞葉・宮下健太郎・東横堀川デザインコンペ「審

教員研究業績 研究室活動業績

査員特別賞」、ぶかぶかマルシェ in 大阪、2020.10

- ◆田中孝登：第64回日本大学理工学部学術講演会「優秀発表賞」、内港地区における低未利用水面の活用方策に関する研究－その2 東京港の貯木場水面にみる水陸の関係性と機能転換のプロセスに着目して－、2021.1
- ◆渡邊朝陽：第64回日本大学理工学部学術講演会「優秀発表賞」、高島市上小川地区における人と水路の係わりに関する調査研究－その1 地区内の水路形態と水利施設の設置形態に着目して－、2021.1

——— 学外活動（講演・講義等） ———

- ◆菅原遠：都市・地方都市における水辺の賑わいづくり－水辺の賑わいを支える「公」と「私」の関係－、法政大学大学院政策創造研究科「比較都市事例研究」大学院授業、2020.7
- ◆菅原遠：「Bamboo Project」を通じた産官学連携の取り組み、八千代市商工会議所青年部講演会、2020.7
- ◆菅原遠：八千代広域公園計画 中間報告、八千代市商工会議所青年部講演会、2020.12
- ◆畔柳昭雄：地球温暖化による気候変動が建築・地域・社会に与える影響と課題・問題、法政大学大学院政策創造研究科「比較都市事例研究」大学院授業、2020.6
- ◆畔柳昭雄：浮体式災害時医療支援システムの計画構想、国際津波防災学会 招待講演、2020.11

——— 学外活動（委員会活動等） ———

【助教・菅原遠】

- ◆日本建築学会・水と緑の公私計画論とマネジメント小委員会 幹事
- ◆日本建築学会・海洋建築ローカルエリアネットワーク小委員会 幹事
- ◆日本建築学会・地域包摂型まちづくり【若手奨励】特別研究委員会 委員
- ◆日本沿岸域学会・企画運営委員会 委員
- ◆土木学会・景観・デザイン研究編集小委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学学会・日本海洋工学学会・海洋工学シンポジウム実行委員会 委員
- ◆（一社）水の安全保障戦略機構・水都東京未来会議 委員
- ◆一般社団法人水辺荘 理事

【特任教授・畔柳昭雄】

- ◆日本海洋工学学会 理事
- ◆国際海洋建築聯盟 会長
- ◆日本水産工学学会 評議員／学協会等連絡担当委員
- ◆日本沿岸域学会 理事 副会長
- ◆日本船舶海洋工学学会・日本海洋工学学会 海洋工学シンポジウム実行委員会 委員
- ◆日本建築学会・水と緑の公私計画論とマネジメント小委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築グローバルネットワーク小委員会 委員
- ◆日本建築学会・顕彰事業委員会 委員
- ◆千葉県魅力ある建設事業推進協議会 会長
- ◆（一社）水の安全保障戦略機構・水都東京未来会議 議長
- ◆青島理工大学都市計画学院/iSMART 客員教授
- ◆近畿大学大学院システム工学専攻 非常勤講師

——— 研究助成・受託研究 ———

- ◆菅原遠：科学研究費・若手研究、日本学術振興会、親水まちづくりの発展に資する親水組織の形成過程とその役割に関する研究
- ◆菅原遠・畔柳昭雄：研究奨励寄付金、日本都市計画学会、地方都市・農村の水辺の公私計画論の構築に向けた実証的研究
- ◆菅原遠・畔柳昭雄：研究奨励寄付金、公益財団法人前田記念工学振興財団、海抜ゼロメートル地域における水害 CCP 構築に向けた民間企業及び地域住民の水害対策・対応の解明
- ◆畔柳昭雄・菅原遠：受託研究、令和2年度学連携地域づくり応援事業、佐渡島沿岸部の水辺環境の価値向上のための調査研究
- ◆菅原遠：受託研究、株式会社水辺総研、ミスベリング・プロジェクトの実施動向に関する調査研究
- ◆菅原遠：受託研究、株式会社社長大、中川連河にぎわいゾーン周辺の回遊性向上のための調査研究
- ◆畔柳昭雄：公益財団法人松井角平記念財団、厳島神社に見る海上立地の計画的・技術的・構造的な対応に関する研究
- ◆畔柳昭雄：公益財団法人大林財団、洪水常襲地帯に見る水防建築と浮体構法に関する研究

山本研究室

——— 口頭発表・ポスター発表 ———

- ◆井野僚・山本和清・宮崎渉・友枝萌子：新規漁業就業者及び外国人漁業就業者の増加要因に関する研究、日本沿岸域学会研究討論会 2020 講演概要集、2020.6.18（COVID-19 の感染拡大により延期）
- ◆永井勇輝・山本和清・宮崎渉・宮崎航太：フィッシャリーナの実態把握と利用活性化に関する調査研究－管理者と利用者の意識に着目した検討－、日本沿岸域学会研究討論会 2020 講演概要集、2020.6.18（COVID-19 の感染拡大により延期）
- ◆永井勇輝・山本和清・宮崎渉・鈴木一帆・加藤拓朗：指定管理者制度導入を想定した新たな漁港管理・運営の可能性に関する研究、日本建築学会 2020 年度大会（関東）学術講演概要集 DVD、10007（pp.13-14）、2020.9.8～10（COVID-19 の感染拡大により中止）
- ◆友枝萌子・山本和清・宮崎渉・宮本浩太郎：漁業学校の実態把握とそのあり方に関する調査研究、日本建築学会 2020 年度大会（関東）学術講演概要集 DVD、10011（pp.21-22）、2020.9.8～10（COVID-19 の感染拡大により中止）

- ◆永井勇輝・山本和清・宮崎渉：漁村地域における「生涯活躍のまち」づくりによる地域活性化に関する研究、第64回日本大学理工学部学術講演会（海洋建築部会）予稿集 CD-ROM、J-42（pp.500-501）、2020.12.2
- ◆落合淳貴・山本和清・宮崎渉：洪水・内水氾濫発生時における自力避難困難者の垂直避難に関する研究、第64回日本大学理工学部学術講演会（海洋建築部会）予稿集 CD-ROM、J-43（pp.502-503）、2020.12.2

——— 学外活動（委員会活動等） ———

- ◆日本福祉のまちづくり学会・身体と空間特別研究委員会 委員
- ◆千葉県・千葉県建設工事総合評価委員会 委員
- ◆東京湾の環境をよくするために行動する会 監事
- ◆東京湾再生官民連携フォーラム・江戸前ブランドPT メンバー

北嶋研究室

審査付論文

- ◆ M.Hada, K. Takeuchi and K. Kitajima : Development and Application of "Super-Elastic Brace" for Steel Buildings, 17th World Conference on Earthquake Engineering, 2c-0032, Sendai, Japan, 2020.9
- ◆ T.Tsuchida, M. Hada, Y. Yanagita, K. Takeuchi and K. Kitajima : Development of Sliding Foundation Structure using Graphite Friction Material, 17th World Conference on Earthquake Engineering, 2g-0187, Sendai, Japan, 2020.9
- ◆ Y.Yamasaki, M. Hada, Y. Ishiwata, S. Kawase, N. Yamazaki and K. Kitajima : Development of Lens Shear Panel Damper and Structural Test for Application to Building, 17th World Conference on Earthquake Engineering, 2g-0071, Sendai, Japan, 2020.9
- ◆ S.Kawakita, D. Asahina, T. Takemura, H. Hosono and K. Kitajima : Effect of hydraulic and mechanical characteristics of sediment layers on water film formation in submarine landslides, Progress in Earth and Planetary Science, 2020.10

口頭発表・ポスター発表

《日本建築学会大会》

- ◆ 巨健太郎・村上航太・山崎康雄・北嶋圭二・中西三和・安達洋：等価線形化法による制震補強設計法に関する研究（その5 補強目標変位時の構造特性値の算定方法および検討対象建物）、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集、pp.655-656、2020.9
- ◆ 村上航太・巨健太郎・山崎康雄・北嶋圭二・中西三和・安達洋：等価線形化法による制震補強設計法に関する研究（その6 検討対象建物の制震補強設計スタンダード結果）、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集、pp.657-658、2020.9
- ◆ 波田雅也・北澤龍太郎・菊地謙太・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しブレースの芯材の局部座屈挙動に関する実験的研究（その1 実験概要および単調圧縮載荷実験）、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集、pp.1037-1038、2020.9
- ◆ 北澤龍太郎・波田雅也・菊地謙太・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しブレースの芯材の局部座屈挙動に関する実験的研究（その2 正負交番繰返し載荷実験）、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集、pp.1039-1040、2020.9
- ◆ 草川和広・今津祥地郎・北嶋圭二・中西三和・安達洋：柱梁強度比及び接合部内の配筋が異なる RC 造十字形柱梁接合部の実験的研究（その1 実験概要及び実験結果）、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集、pp.397-398、2020.9
- ◆ 今津祥地郎・草川和広・北嶋圭二・中西三和・安達洋：柱梁強度比及び接合部内の配筋が異なる RC 造十字形柱梁接合部の実験的研究（その2 破壊状況、鉄筋のひずみ及び接合部挙動）、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集、pp.399-400、2020.9
- ◆ 松浦昂汰・森本竜・北嶋圭二・中西三和・安達洋：地震前後の固有周期の変化率による建物損傷度の評価方法に関する基礎的研究（その1 1 自由度系モデルの評価結果と6層 SRC 造建物の建物諸元）、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集、pp.1059-1060、2020.9
- ◆ 森本竜・松浦昂汰・北嶋圭二・中西三和・安達洋：地震前後の固有周期の変化率による建物損傷度の評価方法に関する基礎的研究（その2 6層 SRC 造建物への適用結果）、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集、pp.1061-1062、2020.9
- ◆ 矢部春恵・北嶋圭二・中西三和・安達洋：ラーメン架構の柱及び免震部材の P- Δ 効果に関する研究、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集、pp.671-672、2020.9
- ◆ 山崎信宏・波田雅也・諸沢征治・石渡康弘・川瀬晶子・久保田雅春・山崎康雄・北嶋圭二：レンズ形状を有するせん断パネルダンパーの開発（その14 エネルギー吸収性能に対する寸法効果の影響）、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集、pp.921-922、2020.9
- ◆ 山崎康雄・小寺直幸・高橋孝二・諸沢征治・波田雅也・野畑茂雄・角友太郎・川瀬晶子・久保田雅春・北嶋圭二：レンズ形状を有するせん断パネルダンパーの開発（その15 告示エネルギー法による LSPD の平均累積塑性変

形倍率の検討）、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集、pp.923-924、2020.9

- ◆ 萩原悠太・北嶋圭二・中西三和・安達洋：水海域における固定式海洋構造物のサブストラクチャ・オンライン応答実験法、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集、pp.29-30、2020.9

- ◆ 川北章悟・竹本貴人・朝比奈大輔・北嶋圭二：堆積層境界の固結度が海底地すべりを引き起こす水膜形成に及ぼす影響、日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集、pp.51-52、2020.9

《理工学部学術講演会》

- ◆ 巨健太郎・村上航太・山崎康雄・北嶋圭二・中西三和・安達洋：等価線形化法における縮約1自由度系的主架構ベースシア係数と多自由度系の層せん断力に関する検討、令和2年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.19-20、2020.12
- ◆ 村上航太・加藤百華・巨健太郎・山崎康雄・北嶋圭二・中西三和・安達洋：崩壊形の異なる RC 造系建物の制震補強設計スタンダード（その1 梁曲げ降伏型 RC 造6階建て建物の検討）、令和2年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.13-14、2020.12
- ◆ 加藤百華・村上航太・巨健太郎・山崎康雄・北嶋圭二・中西三和・安達洋：崩壊形の異なる RC 造系建物の制震補強設計スタンダード（その2 層崩壊する SRC 造10階建て建物の検討）、令和2年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.15-16、2020.12
- ◆ 北澤龍太郎・波田雅也・菊地謙太・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しブレースの芯材の局部座屈挙動と限界変位に関する実験的研究、令和2年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.23-24、2020.12
- ◆ 菊地謙太・波田雅也・北澤龍太郎・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：鋼構造建物に組み込まれた折返しブレースの必要性能に関する検討、令和2年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.25-26、2020.12
- ◆ 國府田有加・北嶋圭二・中西三和・安達洋：2方向同時入力を受ける滑り基礎構造建物の地震応答性状に関する研究、令和2年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.27-28、2020.12
- ◆ 今津祥地郎・北嶋圭二・中西三和・安達洋：柱主筋および補強筋が異なる RC 造十字形柱梁接合部の挙動に関する研究、令和2年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.17-18、2020.12
- ◆ 矢部春恵・北嶋圭二・神田亮・中西三和・安達洋：P- Δ 効果を考慮した積層ゴム支承の線材モデルによる解析結果と実験結果の比較検討、令和2年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.21-22、2020.12
- ◆ 川北章悟・朝比奈大輔・竹本貴人・北嶋圭二：海底地すべりの起因となる水膜現象と堆積層境界の引張強度に関する検討、令和2年度日本大学理工学部学術講演会、海洋建築部会、pp.508-509、2020.12
- ◆ 松寄浩晴・岡田章・宮里直也・北嶋圭二・廣石秀造・中川航佑：木質フィードバック構造の基本的構造特性に関する研究（その1 接合部試験について）、令和2年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.69-70、2020.12

《その他》

- ◆ 川北章悟・朝比奈大輔・竹村貴人・細野日向子・北嶋圭二：Effect of cohesion between sedimentary layers on water film formation in submarine landslides, JpGU-AGU Joint Meeting 2020, 2020.7

著書・執筆等

- ◆ 北嶋圭二：巻頭言「佐野利器（さのとしかた）」先生が開いた道、コンクリート工学、Vol 58, No.4, p.261、2020.4
- ◆ 北嶋圭二：“日本大学理工学部100年史”「4章 日本大学理工学部この10年 4.3 学科この10年（4）海洋建築工学科」、「5章 日本大学大学院理工学研究科（4）海洋建築工学科」、「8章 理工学研究所（1）大型構造物試験センター」、日本大学理工学部100年史、2020.7
- ◆ 北嶋圭二・福井剛：“特集 コンクリートの明日を支える技術者の育成”「大学教育を通しての技術者の育成について」（日本大学理工学部海洋建築工学科での取組み）、コンクリート工学、Vol 59, No.1, pp.10-15、2021.1

所属学生の実績等

- ◆ 矢部春恵：P- Δ 効果を考慮した積層ゴム支承の線材モデルによる解析結果と

教員研究業績 研究室活動業績

実験結果の比較検討、令和2年度日本大学理工学部学術講演会優秀発表賞、(構造・強度部門)

- ◆川北章悟：海底地すべりの起因となる水膜現象と堆積層境界の引張強度に関する検討、令和2年度日本大学理工学部学術講演会優秀発表賞、(海洋建築部門)
- ◆松寄浩晴：木質フィーレンディールトラスの基本的構造特性に関する研究（その1 接合部試験について）、令和2年度日本大学理工学部学術講演会優秀発表賞、(構造・強度部門)

学外活動（講演・講義等）

【教授 北嶋圭二】

- ◆北嶋圭二：NHK BS プレミアム「驚き！ニッポンの底力」建築王国物語、NHK BS プレミアム、2020.7.11 放送
- ◆北嶋圭二：既刊図書講習会「免震・制振構造の設計 - 学びやすい構造設計 -」、日本建築学会関東支部、2020.10.9 (建築会館)

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会・鉄筋コンクリート構造運営委員会（委員）
- ◆日本建築学会・既存中層 RC 建物の耐震性能評価指針作成小委員会（幹事）
- ◆日本建築学会・既存中層 RC 建物の耐震性能評価指針作成小委員会・評価例作成WG（主査）
- ◆日本建築学会・RC 構造将来計画策定WG（委員）
- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会（委員）
- ◆日本建築学会・技術報告集委員会（海洋建築部門幹事）
- ◆日本建築学会関東支部・地震災害調査連絡会（委員）
- ◆日本建築学会関東支部・講習会用構造テキスト委員会・免震制振構造の設計改訂WG（委員）
- ◆日本建築学会関東支部・講習会用構造テキスト委員会・耐震構造の設計改訂WG（委員）
- ◆日本コンクリート工学会・理事

- ◆日本コンクリート工学会・称号授与審査委員会（副委員長）
- ◆日本コンクリート工学会・定款・規則改定委員会（委員）
- ◆日本免震構造協会・審議員
- ◆日本免震構造協会・技術委員会（委員）
- ◆日本免震構造協会・制震部材品質基準小委員会（委員）
- ◆日本免震構造協会・制震部材品質基準小委員会・摩擦ダンパーWG（委員）
- ◆日本免震構造協会・バッシブ制振評価小委員会・制振普及WG（委員）
- ◆日本免震構造協会・バッシブ制振評価小委員会・基準対応WG（委員）
- ◆日本免震構造協会・修士論文審査委員会（委員長）
- ◆構造調査コンサルティング協会・構造物評定委員会（委員）
- ◆ハウスプラス確認検査・耐震診断・耐震改修等評定委員会（委員）
- ◆ハウスプラス確認検査・高層評定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会・耐震判定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会・高層評定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会・指定構造計算適合性判定機関の専門家委員会（委員）

研究助成・委託研究

- ◆委託研究：青木あすなろ建設株式会社、合理的な耐震構造システムに関する研究開発
- ◆委託研究：株式会社ダット、鋼材ダンパーの性能評価に関する技術指導及び研究（令和2年度）
- ◆委託研究：西松建設株式会社、強震観測に基づく建物の振動特性評価と健全性判定支援システムに関する研究（令和2年度）
- ◆委託研究：JFE スチール株式会社、中空鋼管短柱の一軸圧縮実験と構造性能の評価
- ◆研究奨励寄付金：株式会社共和電業、計測器の高精度化に関する研究
- ◆研究奨励寄付金：株式会社長谷工コーポレーション、杭頭免震構法の既製杭適用に関する研究

近藤研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆櫻井郁斗・近藤典夫：非線形数値解析による大型円筒タンク内の液面動揺の検討、日本建築学会大会学術講演会梗概集 2020.09
- ◆遠藤優太・櫻井郁斗・近藤典夫：小さな円筒タンクモデルの液面動揺の実験結果と数値解に関する研究、日本建築学会大会学術講演会梗概集 2020.09
- ◆新宮清志・湯川正貴・平塚聖敏・近藤典夫・入江寿弘：シェル・空間構造物の振動減衰研究 一刊行予定書籍への反映、日本建築学会大会学術講演会梗概集 2020.09
- ◆山田涼介・近藤典夫：超臨界レイノルズ数域の2次元円柱の渦励振解析
- ◆令和2年度日本大学理工学部学術講演会、2020.12
- ◆遠藤優太・近藤典夫：小型円筒形タンク内の非線形液面動揺に関する実験結果と数値解との比較検討、令和2年度日本大学理工学部学術講演会、2020.12

所属学生の受賞等

- ◆遠藤優太：小型円筒形タンク内の非線形液面動揺に関する実験結果と数値解との比較検討、令和2年度理工学部学術講演会優秀発表賞、理工学部、2020.12

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会 シェル・空間構造運営委員会 委員
- ◆日本建築学会 応用力学運営委員会 委員
- ◆日本建築学会 連続体力学の連成問題小委員会 委員
- ◆日本計算工学会 代表委員

福井研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆浜原正行・小池正大・榎本憲嗣・福井剛：平面保持仮定に基づいたせん断伝達機構 その1 アーチ機構モデルとの対比、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.691-692、2020.9
- ◆榎本憲嗣・浜原正行・小池正大・福井剛：平面保持仮定に基づいたせん断伝達機構 その2 耐力式の誘導、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.693-694、2020.9
- ◆小池正大・浜原正行・榎本憲嗣・福井剛：平面保持仮定に基づいたせん断伝達機構 その3 実験結果との比較、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.695-696、2020.9
- ◆小見雄一・金庭史弥・浜原正行・福井剛・内田順子：PC 技術基準のせん断耐力式の修正案 その1 既往のせん断耐力式、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.697-698、2020.9
- ◆金庭史弥・小見雄一・浜原正行・福井剛・内田順子：PC 技術基準のせん断耐

力式の修正案 その2 修正案の提案、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.699-700、2020.9

- ◆岡田和俊・朝倉弘貴・宮原椋一・福井剛・浜原正行：鉛直荷重を受けるPC骨組の地震後の性状に関する実験的研究 その1 実験概要、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.701-702、2020.9
- ◆宮原椋一・朝倉弘貴・岡田和俊・福井剛・浜原正行：鉛直荷重を受けるPC骨組の地震後の性状に関する実験的研究 その2 実験結果、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.703-704、2020.9
- ◆朝倉弘貴・岡田和俊・宮原椋一・福井剛・浜原正行：鉛直荷重を受けるPC骨組の地震後の性状に関する実験的研究 その3 実験値と解析値の比較、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.705-706、2020.9
- ◆内田龍一郎・深谷勇介・福井剛・浜原正行：第I種PC骨組の地震後における使用性に関する解析的研究 その1 解析概要及び解析結果、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.707-708、2020.9

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆深谷勇介・内田龍一郎・福井剛・浜原正行：第I種PC骨組の地震後における使用性に関する解析的研究 その2 残留変形時のたわみと曲げモーメント、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.709-710、2020.9
- ◆宮原椋一・奥祐太郎・御園生大輝・福井剛：PC骨組の地震終了時における鉛直荷重が及ぼす影響に関する実験的研究—その1 実験概要—令和2年度第64回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp41-42、2020.12
- ◆奥祐太郎・宮原椋一・御園生大輝・福井剛：PC骨組の地震終了時における鉛直荷重が及ぼす影響に関する実験的研究—その2 実験結果—令和2年度第64回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp43-44、2020.12
- ◆御園生大輝・宮原椋一・奥祐太郎・福井剛：PC骨組の地震終了時における鉛直荷重が及ぼす影響に関する実験的研究—その3 実験値と解析値の比較—令和2年度第64回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp45-46、2020.12
- ◆浜原正行・小池正大・増田雄太・福井剛：アンボンドPCaPC部材の曲げ耐力式の提案 その1 アンボンド部材の応力伝達機構に対する考察令和2年度第64回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp47-48、2020.12
- ◆増田雄太・小池正大・浜原正行・福井剛：アンボンドPCaPC部材の曲げ耐力の提案 その2 既往の耐力式に対する検討と曲げ耐力式の提案令和2年度第64回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp49-50、2020.12
- ◆小池正大・増田雄太・浜原正行：アンボンドPCaPC部材の曲げ耐力式の提案 その3 トラス機構の残余分の耐力推定式への適用令和2年度第64回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp51-52、2020.12

- ◆深谷勇介・佐俣夏子・福井剛・浜原正行：鉛直荷重を受けるPC骨組の地震後の継続使用性に関する解析的研究（その1 解析概要及び解析結果）令和2年度第64回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp53-54、2020.12
- ◆佐俣夏子・深谷勇介・福井剛・浜原正行：鉛直荷重を受けるPC骨組の地震後の継続使用性に関する解析的研究（その2 残留変形時のたわみと曲げモーメント）令和2年度第64回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp55-56、2020.12
- ◆岡崎佑紀：集成材梁のプレストレス定着性能と圧着接合面のずれせん断耐力に関する実験的研究令和2年度第64回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp57-58、2020.12

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会・プレストレスコンクリート構造運営委員会 幹事
- ◆日本建築学会・プレストレスコンクリート規準指針小委員会 委員
- ◆日本建築学会・プレストレスコンクリート常時荷重設計法小委員会 主査
- ◆日本建築学会・プレストレスコンクリート材料・施工WG 委員
- ◆日本建築学会・関東支部 プレストレスコンクリート建築専門研究委員会 委員
- ◆日本建築学会・関東支部 講習会用構造テキスト作成委員会 幹事
- ◆日本建築学会・関東支部 講習会用構造テキスト委員会 PC構造の設計改定WG 主査
- ◆プレストレス工学会・コンクリート構造診断士試験問題小委員会 委員
- ◆プレストレス工学会・コンクリート構造診断士技術講習会小委員会 委員
- ◆プレストレス工学会・会誌編集委員会 論文審査小委員会 委員
- ◆日本ERI・建築基準法に基づく構造性能評価委員会 委員

居駒・相田研究室

審査付論文

- ◆Hiroaki Eto, Sena Shimomoto, Sachio Togawa, Morikazu Yamamoto, Shintaro Miyasawa, Junko Yamaguchi, Tomoki Ikoma, Yasuhiro Aida, Koichi Masuda, and Hiroki Udagawa: On GIS Based Selection of Suitable Site Including Cooperation With Surrounding Medical Facilities by Mesh Analysis of Floating Medical Support System on Big Disaster. OMAE2020-19026. Proceedings of the ASME 2020 39th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic
- ◆Tomoki Ikoma, Shota Hirai, Yasuhiro Aida, Koichi Masuda, and Hiroaki Eto: Effects of Scale and Configuration of Air Chamber of OWC Type WECs on Air Chamber Characteristics. OMAE2020, August 3-7, 2020, Virtual, Online. OMAE2020-18762
- ◆Koichi Masuda, Tomoki Ikoma, Hiroaki Eto, Yasuhiro Aida, and Kazuki Murata: Study on Applicability of FEMA Formula in Prediction of Impact Load by Tsunami Drifting Vessels on Coastal Zone Structures. OMAE2020, August 3-7, 2020, Virtual, Online. OMAE2020-19088
- ◆Hiroaki Eto, Ryo Sekiguchi, Hitomi Kashima, Tomoki Ikoma, Yasuhiro Aida, and Koichi Masuda: A Fundamental Study on Motion Characteristics of the Large-Scale Floating Coal Transshipment Station by Elastic Mooring Lines. OMAE2020, August 3-7, 2020, Virtual, Online. OMAE2020-18958
- ◆Ryo Nishigochi, Hiroaki Eto, Koji Iizuka, Tomoki Ikoma, Yasuhiro Aida, and Koichi Masuda: A Fundamental Study on Plastic Strain Accompanying Deformation in Large-Scale Floating Coal Transshipment Station. OMAE2020, August 3-7, 2020, Virtual, Online. OMAE2020-18962
- ◆Tomoki Ikoma, Shoichiro Furuya, Yasuhiro Aida, Koichi Masuda, and Hiroaki Eto: Characteristics of OWC Type WEC Dampers Installed on a Very Large Floating Structure. OMAE2020, August 3-7, 2020, Virtual, Online. OMAE2020-19002
- ◆Lu Lin, Tan Lei, Zhou Zhongbing, Zhao Ming, Ikoma Tomoki. Two-dimensional numerical study of gap resonance coupling with motions of floating body moored close to a bottom-mounted wall. Physics of Fluids, 2020, 32, 092101. (peer reviewed)
- ◆Tan Lei, Moritsu Satsuya, Ikoma Tomoki, Aida Yasuhiro, Masuda Koichi. Study of motion performance of a floating system with four moonpools and a VAWT. The 3rd International Offshore Wind Technical Conference (2021), Boston, USA. IOWTC2021-3511. American Society of Mechanical

Engineers (ASME). (peer reviewed)

- ◆Tan Lei, Ikoma Tomoki, Fujishima Katsuhide, Aida Yasuhiro, Masuda Koichi. Investigation of motions of a floating wind turbine foundation with multiple moonpools. Proceedings of the Fourteen Pacific/Asia Offshore Mechanics Symposium (2020), Dalian, China. pp. 358-365. The International Society of Offshore and Polar Engineers (ISOPE). (peer reviewed)
- ◆Ikoma Tomoki, Furuya Shoichiro, Aida Yasuhiro, Tan Lei. Effects of clearance between seabed and bottom of a VLFS on hydroelastic responses. The 2nd world conference on floating solutions (2020), Rotterdam, Netherland. The Society of Floating Solutions Singapore. (peer reviewed)

口頭発表・ポスター発表

- ◆平井翔太・居駒知樹・相田康洋・増田光一・惠藤浩朗：振動水柱型波力発電装置の空気室特性に与える縮尺影響に関する基礎的研究—その2—、日本船舶海洋工学会講演会論文集 Conference proceedings, the Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (30), 325-330, 2020-05
- ◆古矢祥一朗・居駒知樹・相田康洋・惠藤浩朗・増田光一：大型浮体に搭載したOWC型波力発電装置のダンパー効果による運動特性について、日本船舶海洋工学会講演会論文集 Conference proceedings, the Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (30), 685-691, 2020-05
- ◆鈴木雅洋・居駒知樹・相田康洋・増田光一・林昌奎：一様流中において回転する円柱の端部影響に関する実験的研究、日本船舶海洋工学会講演会論文集 Conference proceedings, the Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (30), 265-268, 2020-05
- ◆平井翔太・居駒知樹・相田康洋・増田光一：OWC型波力発電装置の空気室の縮尺や容積の違いが空気室特性に及ぼす影響に関する基礎的研究、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.23-24、2020.9
- ◆佐野敦紀・居駒知樹・相田康洋・増田光一：起重機船を使用した洋上風車基礎杭設置作業における基礎杭の挙動に関する基礎的研究、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.25-26、2020.9
- ◆守津颯哉・居駒知樹・相田康洋・増田光一（日本大）：ムーンプールを有するポンツーン浮体に搭載された垂直軸風車の回転が浮体動揺に与える影響に関する研究、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.27-28、2020.9

教員研究業績
研究室活動業績

- ◆西河内亮・惠藤浩朗・居駒知樹・相田康洋・増田光一（日本大）：大型石炭貯蔵浮体の変形に伴う応力分布と塑性ひずみに関する基礎的研究、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.31-32、2020.9
- ◆関口諒・木原寛明・惠藤浩朗・増田光一・居駒知樹・相田康洋：離島港湾における係留船舶の消波装置による動揺低減効果に関する基礎的研究、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.33-34、2020.9
- ◆野口隆幸・居駒知樹・相田康洋・古矢祥一郎・増田光一（日本大）：大型浮体の弾性応答に与える喫水及び海底面とのギャップの影響、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.35-36、2020.9
- ◆古矢祥一郎・居駒知樹・相田康洋・増田光一：大型浮体に搭載した OWC 型波力発電装置のダンパー効果による運動応答特性に関する研究、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.39-40、2020.9
- ◆竹尾知峻・相田康洋・居駒知樹・福永勇太・増田光一：MPS 陽解法による津波漂流物の衝突シミュレーション法に関する基礎的研究 その 1 MPS 陽解法による津波波形の再現、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.43-44、2020.9
- ◆相田康洋・居駒知樹・増田光一・福永勇太：MPS 陽解法による津波漂流物の衝突シミュレーション法に関する基礎的研究その 2 津波漂流物の衝突シミュレーション法の開発、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.45-46、2020.9
- ◆増田光一・相田康洋・居駒知樹・秋山莉亜・竹尾知峻：高齢者の歩行速度を考慮した津波避難困難地域の抽出と人的被害低減対策、日本建築学会大会（関東）学術講演会梗概集 pp.49-50、2020.9
- ◆増田光一・細谷 昂・相田康洋・居駒知樹・惠藤浩明・福永勇太：沿岸都市における港湾津波ハザードマップ開発に関する基礎的研究、第 28 回海洋工学シンポジウム、OES28-070、2020.9
- ◆平井 翔太・居駒知樹・相田康洋・増田光一：振動水柱型波力発電装置の空気室の縮尺及び形状が空気室特性に与える影響に関する基礎的研究、第 28 回海洋工学シンポジウム、OES28-058、2020.9
- ◆古矢祥一郎・居駒知樹・相田康洋・増田光一：大型浮体に搭載した OWC 型波力発電装置のダンパー特性について、第 28 回海洋工学シンポジウム、OES28-062、2020.9
- ◆鈴木 雅洋・居駒知樹・相田康洋・増田光一・林 昌奎：一様流中において回転する円柱の流体力に関する実験的研究、第 28 回海洋工学シンポジウム、OES28-026、2020.9
- ◆相田康洋・竹尾知峻・居駒知樹・増田光一：減衰領域および吸収制御による無反射境界を導入した MPS 法による二次元数値造波水槽の開発、第 28 回海洋工学シンポジウム、OES28-052、2020.9
- ◆村田 一城・居駒知樹・増田光一・相田康洋：沿岸構造物と大規模津波漂流物の衝突問題に関する数値シミュレーション、第 28 回海洋工学シンポジウム、OES28-055、2020.9
- ◆相田康洋・福永勇太・居駒知樹・増田光一：MPS 陽解法による津波波形の再現に関する基礎的研究、第 28 回海洋工学シンポジウム、OES28-057、2020.9
- ◆守津 颯哉・居駒知樹・相田康洋・増田光一：ムーンプールを有するポンツーン浮体の形状変化に伴う動揺特性の違いに関する研究、第 28 回海洋工学シンポジウム、OES28-078、2020.9
- ◆Tan Lei, Ikoma Tomoki : A viscous damping model for the wave-induced response of a water column in narrow gaps or moonpools. 第 28 回海洋工学シンポジウム、OES28-077、2020.9
- ◆竹尾知峻・相田康洋・居駒知樹・増田光一：MPS 法による数値造波水槽のためのエネルギー減衰帯及び吸収制御システムを用いた無反射境界の開発、日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.510-511、2020.12
- ◆佐野敦紀・居駒知樹・相田康洋：フォーエスベクトルとインパルス応答関数を用いた時刻歴応答計算方法、日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.512-513、2020.12
- ◆藤島健英・居駒知樹・相田康洋：縦軸風車を搭載したムーンプールを有するポンツーン型浮体の波浪中応答へのジャイロ効果に関する基礎的研究、日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.514-515、2020.12
- ◆居駒知樹・相田康洋・平井翔太：振動水柱型波力発電装置の空気室形状と縮尺の違いが空気室特性に与える影響に関する実験的研究、日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.516-517、2020.12
- ◆居駒知樹・相田康洋・古矢祥一郎：海底と浮体底面のクリアランスが超大型浮

体の流れ弾性に与える影響に関する研究、日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.518-519、2020.12

- ◆守津颯哉・居駒知樹・相田康洋：ムーンプールの形状の変化が浮体の運動応答に与える影響に関する研究、日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.520-521、2020.12
- ◆Tan Lei, Ikoma Tomoki, Aida Yasuhiro, Masuda Koichi. A study of wave-induced responses of a floating vertical axis wind turbine installed with moonpools. 日本船舶海洋工学学会講演会論文集 Conference proceedings, the Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (31), 321-326、2020-05
- ◆Tan Lei, Ikoma Tomoki. Numerical investigation of wave-induced motions of a floating box near a vertical wall. 日本船舶海洋工学学会講演会論文集 Conference proceedings, the Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (31), 327-332、2020-05

著書・執筆等

- ◆居駒知樹：「再生可能エネルギーとしての洋上風力発電と海洋建築」、日本建築士会連合会誌「建築士」、2020.8
- ◆居駒知樹：「海へのいざない」3章3節「波による発電」、第2版、日本船舶海洋工学学会、2021.2

所属学生の受賞等

- ◆守津颯哉：日本大学理工学部学術講演会優秀発表賞、ムーンプールの形状の変化が浮体の運動応答に与える影響に関する研究、日本大学理工学部、2020.12

学外活動（講演・講義等）

- ◆居駒知樹：海流潮流エネルギーと技術、長崎県立口加高等学校におけるオンライン講義、2020.12.14
- ◆居駒知樹：日本の海洋再生可能エネルギー開発動向 2021、新潟県海洋エネルギー研究会にてビデオ講演、2021.2
- ◆居駒知樹：「海洋建築と SDGs」、「各種浮体式構造物の波浪中運動性能の研究」、佐野日本大学中等教育学校にて特別講義、2021.3
- ◆居駒知樹：Wave Energy (1) Introduction on Wave Energy, Ocean Renewable Energy Course of Brazil-Japan Collaboration Program on Naval Architecture and Offshore Engineering hosted by the University of Tokyo. 2020.12.3
- ◆居駒知樹：Wave Energy (2) Design of wave energy converters, Ocean Renewable Energy Course of Brazil-Japan Collaboration Program on Naval Architecture and Offshore Engineering hosted by the University of Tokyo. 2020.12.10
- ◆居駒知樹：Wave Energy (3) Case study of OWC type WEC development, Ocean Renewable Energy Course of Brazil-Japan Collaboration Program on Naval Architecture and Offshore Engineering hosted by the University of Tokyo. 2020.12.15

学外活動（委員会活動等）

<居駒知樹>

- ◆東京大学大学院新領域創成科学研究科海洋技術環境専攻 非常勤講師
- ◆東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー
- ◆一般社団法人海洋エネルギー資源利用推進機構 理事（学術担当）
- ◆日本海洋工学学会 理事、運営委員（日本沿岸域学会担当）
- ◆日本建築学会 代議員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会 本委員会委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築ローカルエリアネットワーク小委員会 主査
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築エンジニアリング小委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋工学 海洋環境研究企画部会 幹事
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋工学研究会 幹事
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋環境研究会 委員
- ◆日本船舶海洋工学学会・S-24 海洋構造物のデジタルツイン技術に関するストラテジー委員会 主査
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋教育推進委員会 運営委員
- ◆日本沿岸域学会・企画運営委員会 委員長

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆日本沿岸域学会・2020年アピール研究委員会委員長
- ◆テクノ・オーシャン・ネットワーク (TON) 理事
- ◆土木学会 会員
- ◆海洋工学懇談会 幹事
- ◆日本海洋工学会・日本船舶海洋工学会・第28回海洋工学シンポジウム 実行委員
- ◆Techno-Ocean 2021 Technical Program Committee member
- ◆PACON International, Board member (理事)
- ◆OMAE 2020 & OMAE 2021 Symposium Organizer of Ocean Space Utilization
- ◆ASME member, OMAE 部会拡大理事会メンバー
- ◆IEEE member
- ◆Renewable Energy 2020 分科会8 (海洋エネルギー) Co-Readers
- ◆IEC TC114 国内委員
- ◆IEC TC114 MT 62600-103 - Guidelines for WEC testing, 国際委員
- ◆国土交通省・港湾局・海・船の視点から見た港湾強靱化検討委員会 委員
- ◆特殊な設置形態の太陽光発電設備に関する安全性確保のためのガイドライン策定委員会 委員
- ◆三菱総合研究所・NEDO「海洋エネルギー発電に関する情報収集」外部協力員
- ◆日本 ERI 構造評定委員

<相田康洋>

- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築津波等防災小委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・ローカルエリアネットワーク小委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・津波ソフト対策検討 WG 委員
- ◆日本海洋工学会・日本船舶海洋工学会・第28回海洋工学シンポジウム 実行委員 (日本建築学会より)

研究助成・受託研究

- ◆居駒知樹：科学研究費補助金 (JSPS)・基盤研究 (B)、振動水柱型波力発電装置の空気室容積や形状の違いによる非線形影響と縮尺影響の究明 (2年度目)
- ◆居駒知樹：科学技術振興機構 (JST)、A-STEP、コストを大幅に軽減する Multi-connection 型縦軸浮体式風車の研究開発 (研究分担者)
- ◆居駒知樹：理工学部プロジェクト研究費、大型垂直軸風車を搭載した浮体式風力発電システムのタービン性能と耐波浪性能からみた実現可能性の研究
- ◆相田康洋：令和2年度港湾空港総合技術センター (SCOPE) 研究開発助成、横抱き係留された作業船団の津波中挙動と漂流防止効果に関する研究
- ◆居駒知樹：港湾空港総合技術センター 受託研究、沿岸域のレジリエンス強化に関する調査研究

惠藤研究室

審査付論文

- ◆惠藤浩朗・鹿島瞳・関口諒・居駒知樹・相田康洋・増田光一：弾性係留索により係留された大型浮体の運動応答特性、土木学会論文集 B3 (海洋開発) 76(2) p.390-395、2020.07
- ◆Hiroaki Eto, Ryo Sekiguchi, Hitomi Kashima, Tomoki Ikoma, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda : A fundamental study on motion characteristics of the large-scale floating coal transshipment station by elastic mooring lines, Proceedings of OMAE2020 OMAE2020-18958, 2020.08
- ◆Ryo Nishigochi, Hiroaki Eto, Koji Iizuka, Tomoki Ikoma, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda : A fundamental study on plastic strain accompanying deformation in large-scale floating coal transshipment station, Proceedings of OMAE2020 OMAE2020-18962, 2020.08
- ◆Hiroaki Eto, Sena Shimomoto, Sachio Togawa, Morikazu Yamamoto, Shintaro Miyasawa, Junko Yamaguchi, Tomoki Ikoma, Yasuhiro Aida, Koichi Masuda and Hiroki Udagawa : On gis based selection of suitable site including cooperation with surrounding medical facilities by mesh analysis of floating medical support system on big disaster, Proceedings of OMAE2020 OMAE2020-19026, 2020.08
- ◆Tomoki Ikoma, Shota Hirai, Yasuhiro Aida, Koichi Masuda, and Hiroaki Eto : Effects of scale and configuration of air chamber of OWC type WECs on air chamber characteristics, Proceedings of OMAE2020 OMAE2020-18762, 2020.08
- ◆Koichi Masuda, Tomoki Ikoma, Hiroaki Eto, Yasuhiro Aida and Kazuki Murata : Study on applicability of fema formula in prediction of impact load by tsunami drifting vessels on coastal zone structures, Proceedings of OMAE2020 OMAE2020-19088, 2020.08
- ◆Tomoki Ikoma, Shoichiro Furuya, Yasuhiro Aida, Koichi Masuda and Hiroaki Eto : Characteristics of OWC Type WEC dampers installed on a very large floating structure, Proceedings of OMAE2020 OMAE2020-19002, 2020.08

口頭発表・ポスター発表

- ◆平井翔太・居駒知樹・相田康洋・増田光一・惠藤浩朗：振動水柱型波力発電装置の空気室特性に与える縮尺影響に関する基礎的研究 - その2 -, 日本船舶海洋工学学会講演会論文集 (30)、2020S-GS4-11、pp.325-330、2020.05
- ◆古矢祥一朗・居駒知樹・相田康洋・惠藤浩朗・増田光一：大型浮体に搭載した OWC 型波力発電装置のダンパー効果による運動特性について、日本船舶

- 海洋工学学会講演会論文集 (30)、2020S-GS13-8、pp.685-691、2020.05
- ◆西河内亮・惠藤浩朗・居駒知樹・相田康洋・増田光一：大型石炭貯蔵浮体の変形に伴う応力分布と塑性ひずみに関する基礎的研究、日本建築学会大会 (関東) 学術講演会梗概集、10016、pp.31-32、2020.09
- ◆関口諒・木原寛明・惠藤浩朗・増田光一・居駒知樹・相田康洋：離島港湾における係留船舶の消波装置による動揺低減効果に関する基礎的研究、日本建築学会大会 (関東) 学術講演会梗概集、10017、pp.33-34、2020.09
- ◆増田光一・細谷昂・相田康洋・居駒知樹・惠藤浩朗・福永勇太：沿岸都市における港湾津波ハザードマップ開発に関する基礎的研究、第28回海洋工学シンポジウム、OES28-070、2020.09
- ◆鈴木湧大・立原直樹・盛一佑太・関口諒・鹿島瞳・惠藤浩朗：弾性係留索により係留された大型石炭貯蔵浮体の運動応答解析 - 弾性係留索とカタナリー係留による運動応答の比較 -, 第64回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-41、2020.12

受賞等

- ◆惠藤浩朗：下本瀬賞：日本沿岸域学会論文賞、GISによる災害時医療支援浮体の適地選定および規模に関する基礎的研究、日本沿岸域学会、2020.9
- ◆惠藤浩朗：JAMSTEC 中西賞、GISによる災害時医療支援浮体の適地選定および規模に関する基礎的研究、日本海洋工学会、2021.3

所属学生の受賞等

- ◆鈴木湧大・立原直樹・盛一佑太・関口諒・鹿島瞳：日本大学理工学部学術講演会優秀発表賞、2020.12

学外活動 (講演・講義等)

- ◆惠藤浩朗：5章 我が国の主な海中展望塔の概要、日本建築学会 講習会「海洋建築の計画・設計事例」、2021.02

学外活動 (委員会活動等)

- ◆東京大学生産技術研究所 研究員
- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築エンジニアリング小委員会 幹事
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築企画小委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋工学研究会 構造部会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会・東部支部編集委員会 委員
- ◆日本沿岸域学会 論文集編集委員会 委員

教員研究業績
研究室活動業績

小林(昭)・野志研究室

審査付論文

- ◆横田拓也・宇多高明・小林昭男・星上幸良・勝木厚成・野志保仁：海岸砂丘群形成の実測と予測 - 遠州灘に面した浜松篠原海岸の例 -, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.76, No.2, pp.L240-L245, 2020.7
- ◆西村亜子・小林昭男・宇多高明・野志保仁：岩盤上に載る礫浜の堆積侵食判定に係る礫層厚の閾値に関する実験, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.76, No.2, pp.L246-L251, 2020.7
- ◆高橋紘一郎・岩田泰宏・芹澤秀太・半澤亮佑・小林昭男・宇多高明・野志保仁：大磯北浜海岸における複数の堆砂垣の効果観測, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.76, No.2, pp.L252-L257, 2020.7
- ◆梅田天斗・宇多高明・小林昭男・野志保仁：波向変動場における護岸周辺の地形変化予測, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.76, No.2, pp.L258-L263, 2020.7
- ◆宇多高明・大谷靖郎・大木康弘・横田拓也：九十九里浜南部の一松海岸で繰り返される護岸の被災, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.76, No.2, pp.L288-L293, 2020.7
- ◆梅田天斗・宇多高明・小林昭男・野志保仁：侵食による新島羽伏浦海岸の崖地の後退とその再現計算, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), 76 巻 2 号 p. L463-L468, 2020.11
- ◆横田拓也・宇多高明・小林昭男・星上幸良・勝木厚成・野志保仁：飛砂も考慮した遠州灘海岸の地形変化予測, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), 76 巻 2 号 p. L469-L474, 2020.11
- ◆目野玄也・小林昭男・宇多高明・野志保仁：Deep-learning を用いた海浜変形診断システム, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), 76 巻 2 号 p. L481-L486, 2020.11
- ◆渡部末樹久・宇多高明・小林昭男・野志保仁：平坦な干潟とリーフ縁辺部での安定した海浜縦断形の形成, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), 76 巻 2 号 p. L523-L528, 2020.11

- ◆Akio Kobayashi, Takaaki Uda, Takuya Yokota, Yasuhito Noshi and Kazuma Nishimura, FORMATION OF CUSPATE FORELAND BEHIND AN ISLAND UNDER WAVES INCIDENT FROM TWO OPPOSING DIRECTIONS, COASTAL ENGINEERING PROCEEDINGS 2020, 2020.9

学外活動 (講演・講義等)

- ◆出張講義「SDGs と海洋見地工学科の取り組みについて」、野志保仁・CST サイエンスアカデミー-SDGs をテーマに-, 2021 (予定)
- ◆出張講義「砂浜を取り戻す」、小林昭男・CST サイエンスアカデミー, 2020.12.12.21
- ◆出張講義「砂浜を取り戻す」、居駒知樹・野志保仁・CST サイエンスアカデミー-SDGs をテーマに-, 2020.12.10.14

学外活動 (委員会活動等)

- ◆小林昭男：日本海洋工学会 (副会長・理事・運営委員会委員)
- ◆小林昭男：日本建築学会・海洋建築本委員会 (委員)
- ◆小林昭男：神奈川県港湾審議会 (会長)
- ◆小林昭男：市原市建築審査会 (委員)
- ◆野志保仁：土木学会海洋開発委員会 (幹事兼委員)

研究助成・受託研究

- ◆野志保仁：受託研究、一般財団法人土木研究センター、サンゴ礁海岸の局所勾配と底質粒度組成に関する研究
- ◆野志保仁：受託研究、一般財団法人土木研究センター、逗子海岸の海浜地形と底質粒径組成に関する研究
- ◆野志保仁：受託研究、株式会社ダイコウ測量設計、海浜地形と底質粒径組成に関する研究

星上研究室

学外活動 (講演・講義等)

- ◆星上幸良：東日本大震災による被災沿岸地域の復興状況に関する報告 (オンライン)、桜門建築会海洋系研究懇談会、2020.12.21

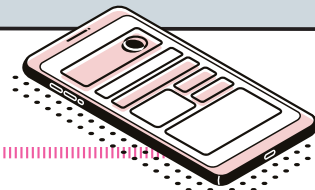
学外活動 (委員会活動等)

- ◆土木学会・土木技術者資格委員会 審査員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会津波 WG 委員

研究助成・受託研究

- ◆星上幸良：研究奨励寄付金、(一財) 土木研究センター、UAV 測量による由比ヶ浜の地形変化に関する研究
- ◆星上幸良：研究奨励寄付金、(一財) 土木研究センター、UAV 測量による沼川第 2 放水路放水前後の地形変化に関する研究

最新情報を SNS でチェック!!



卒業生の就職状況

学科就職担当 菅原遼・福井剛

1. 就職状況の全体像

昨年度（2021年3月末時点）の就職希望者の就職内定率は、学部・大学院ともにおおよそ100%となりました（表1）。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大を受け、オンライン上でのインターンシップや企業説明会および採用面接が一般的となり、従来の形式とは大きく異なるものとなりました。しかし、建設業界の人手不足は未だ顕著であり、人材確保に積極的な企業が多いですが、企業側の採用活動の実施方法に対応した積極的な就職イベントへの参加と情報収集・分析が大切となります。

就職活動に際しては、学科が積極的なサポートを行っています。平成29年度からは、建築学科との共催による各種就活イベントも開始し、様々な企業とそこで働くOBOGに出会う機会が増えてきています（表2）。海洋建築工学科OBOGによる業界説明会である「カイケンJOBスクール」では、令和2年度については完全オンライン開催とし、海洋建築の学生を熱望する企業が40社以上参加しました。本来、これらの企業をすべて訪問するにはおおよそ半年以上かかるでしょう。「カイケンJOBスクール」は毎週木曜日に開催しているため、建築、土木、海洋、エンジニアリング、建設コンサルタントなど、様々な企業の情報を頻りに収集することができます。毎週参加し、視野を大きく広げる機会としてください。また、建築学科との共催による「OBOGと学生との懇談会」は、建築関連企業に特化した就職イベントです。こちらも令和2年度はオンライン上での開催となりました。大手ゼネコンを含む約80社が参加し、企業側の説明者は両学科のOBOGです。建設業に進む学生の8割は、このイベントの参加企業に就職しています。各種イベントを最大限に有効活用し、日本大学の強みであるOBOGネットワークを駆使して、希望する企業への就職内定を勝ち取りましょう。

2. 業種別就職内定先

本学科の学生の就職先は、建設業（ゼネコン）が最も多く、令和2年度は72名（50%）を占めています。また、設計事務所は8名（6%）、住宅・不動産は7名（5%）、であり、これらで全体の61%を占めています。また、比較的土木寄りの業種である海洋系・建設コンサルタントへの就職も16名（10%）いることも本学科の特徴です。2021年3月卒業学生の主要内定先企業（表3）をみると、いずれも業界屈指の大手企業に一定数が就職していることが分かります。この状況は理工学部建築学科と比較しても全く遜色ありません。自信をもって就職活動に挑んでください。

3. 本年度の就職活動に向けて

企業の採用活動の時期は、年々早期化する傾向が見られます。3月：会社説明会開始、6月：企業内選考開始を表向きは原則とする企業が多い中、実態としては早期選考を行う企業もあります。オンライン上での採用活動が一般化した昨年は、より早期採用の傾向が強まっ

表1 就職・進学状況（学部・大学院）

	学部			大学院			学部・院	学部・院合計	
	男子	女子	男女合計	男子	女子	男女合計	合計	R1年度	H30年度
学生数（人）	102	31	133	34	2	36	169	178	181
就職希望者（人）	65	27	92	31	2	33	125	140	132
内定	65	27	92	30	2	32	124	140	132
未定	0	0	0	1	0	1	1	0	0
内定率（%）	100	100	100	97	100	97	99	100	100
大学院進学（人）	33	4	37	2	0	2	39	29	38
本学	32	4	36	2	0	2	38	26	38
他大学	1	0	1	0	0	0	1	3	0
その他（人）	4	0	4	1	0	1	5	9	11
研究生	0	0	0	0	0	0	0	1	3
留学（希望者含む）	0	0	0	0	0	0	0	2	1
他大学・専門学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
次年度公務員志望	1	0	1	0	0	0	1	0	0
就職の意思のない者	3	0	3	1	0	1	4	6	7

表2 就活支援イベント（令和2年度実績）

日程	イベント	開催主体
8月～3月	カイケンJOBスクール（毎週木曜日開催）	海建
9月～11月	キャリア教育プログラム（大学院生限定）	海建・建築
10月	OBOGと学生との懇談会	海建・建築
11月～2月	業界・企業研究セミナー	理工学部

ています。世間全般の動向も大切ですが、建設業界特有の動向を注視する必要があります。特に、オンラインを中心とした就職活動では、大学や企業からの様々な情報を見逃さないように注意しましょう。企業の動きや同級生の活動状況が分からず、自分自身の就職活動の状態に不安を感じることもあると思います。就職指導担当の教員や所属する研究室の指導教員に相談したり、研究室の先輩の体験談を聞いたりすると方向性が見いだせるはず。自ら積極的に情報交換を行うようにしましょう。

大手ゼネコンや大手設計事務所は、かなり早期に採用活動を開始しています。有利に就職活動を進めるためには、夏期インターンシップ（8～9月頃）に参加するなど、情報収集を行うとともに計画性をもって活動していく必要があります。また、早期に採用活動を実施する企業は、冬期インターンシップ（1月頃）や現場見学会において、リクレーターによる面談が行われ学生の選抜が進められます。これは実質的な面接といえ、3月を待たずして内々定を出す企業もあります。就職活動の年間スケジュールの一例を示しますので参考にしてください（表4）。

それ以外の多くの企業は、採用時期は若干遅くなりますが、各種インターンシップは開催します。そのため、冬期インターンシップに参加するためには、12月中には就職の方向性（業種・職種・企業規模等）を決めておく必要があります。各企業の開催日程が重複するため、それほど多くのインターンシップには参加出来ないためです。インターンシップへの参加は就職活動の必須条件ではありませんが、学生は企業と仕事内容を知り、企業は学生と巡り会う機会として、双方のメリットがあるため、この数年で開催頻度が急速に増

えてきており、その重要度も増す傾向にあります。特に、夏季インターンシップには、興味のある業種の企業に最低1つは参加しましょう。就職活動に対する意識・考え方も変わるはずで、3年生の夏休みの過ごし方は重要であり、SPI 試験対策や専門試験対策、企業研究、履歴書の試作等、やるべきことが盛りだくさんです。企業は人材確保に積極的ですが、能力の高い学生だけを求める傾向が強まっています。

学科では、年数回の就職ガイダンスの開催を予定していますので、必ず参加してください。就職ガイダンスでは、最新の企業動向や就職活動スケジュール、学内ルール等の重要な情報を伝えます。併せて、学部や学科主催の就職セミナーに積極的に参加し、業種・職種や自分の適性について自己認識をきちんと持つようにしてください。学科主催のイベントは、これまでの就職指導の経験を通して、海洋建築工学科の学生の適性や嗜好を踏まえた内容としているため他にはないものになっています。是非、有効活用してください。大学と企業間のネットワーク以上に強いものはほとんど無いことを覚えておいてください。

令和3年度の学科の就職指導担当は福井・高橋・菅原、学科教室事務は岡崎さん・倉井さんがフォローしてくれます。学科教室事務室は13号館3階1321室です。対応時間は平日10～17時です。また、moodleの「2023卒 就職関連情報」ページには、学科の就職イベントや企業のインターンシップおよび会社説明会、求人情報などを随時掲載しています。こまめに定期的に確認するように心掛

けてください。さらに、13号館1階の「キャリア支援センター」では、企業情報やOBOGの活動履歴の閲覧に加え、履歴書の作成指導や模擬面接を受けることができます。是非一度足を運んでみてください。

表4 就職活動の年間スケジュール(例)

	【一般的な企業】	【早期に活動する企業例】
4月		
5月		
6月	夏期インターンシップエントリー	夏期インターンシップエントリー
7月		
8月	夏期インターンシップ	夏期インターンシップ
9月	夏期インターンシップ	夏期インターンシップ
10月		
11月		
12月		リクルーター面談
1月	冬期インターンシップ	冬期インターンシップ
2月	冬期インターンシップ	企業面談・内々定
3月	採用面接開始	適性検査
4月	適性検査	内定
5月		
6月	内定	
7月		

表3 主要就職先企業一覧

業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院
建設業	清水建設	2		建設業	あおみ建設	1		コンサルタント	復建技術コンサルタント	1	
	大成建設	4	1		エム・エム・ブリッジ		1		ニュージェック		1
	大林組	1	2		広島建設	1			日本エンジニアリング	2	
	鹿島建設		2		日本設備工業	1			山下PMC		1
	長谷工コーポレーション	2			東洋熱工業	1			ゼニヤ海洋サービス	1	
	戸田建設	3			日新設備	1		東京都	1		
	フジタ	3		NTT ファシリティーズ		1	千葉県庁	1			
	三井住友建設	1		類設計室	1		山梨県庁	1			
	西松建設	1	1	IAO 竹田設計		1	横浜市役所	1			
	飛鳥建設	3	1	織本構造設計		1	さいたま市役所	1			
	熊谷組	1		INA 新建築研究所		1	目黒区役所	1			
	安藤・間	1		クロスファクトリー	1		東京電力HD		1		
	青木あすなろ建設	1	2	筒井紀博空間工房		1	漁港漁場漁村総合研究所		1		
	高松建設	1		ポラス	2		能美防災	1			
	りんかい日産建設	2		三井ホーム	1		日本 ERI		1		
	鉄建建設	1		スターツホーム	1		テクバン		1		
	東鉄工業	1		住友林業ホームテック	1		秀光	1			
	五洋建設	4	1	日本総合住生活	1		藤寿産業		1		
	東亜建設工業	3	1	大成有楽不動産	1		大和ライフネクスト	1			
	東洋建設	8		日本港湾コンサルタント	1	1	スバル	1			
深田サルベージ建設	1		オリエンタルコンサルタント	1		JA 横浜	1				
若築建設	1		いであ		1	日立造船		2			
不動テトラ	3		東京建設コンサルタント		1	船井総合研究所	1				

海と建築

vol. 23

建 築家は建築を設計デザインするだけでなく、船についても設計から計画、構造、施工までを行っており、コルビュジェやその弟子の前川国男がコンクリート船の改修を手掛けたことは本誌 107 号でも触れた。

わ が国でもコンクリート船は、戦時中に鋼材不足に対応して海軍ばかりか、陸軍でも建造してきた経緯がある。特に陸軍では、海洋建築工学科生みの親の加藤涉先生が大学を卒業後、満州（現：中国）大陸科学院の建築研究室の小野薫主任研究員（前職は日大教授、帰国後は東大教授）、斎藤謙二副研究員（帰国着日大教授）と共に 2000 年のコンクリート船の構造設計に携わっている。



広島県安浦漁港の防波堤として再利用された
第1武智丸と第2武智丸



フランス・パリ・セーヌ川の河畔に係留された
ル・コルビュジェと前川国男による改修を受けたアジュールフロタン号

海 軍におけるコンクリート船の建造では、半潜水式油槽船が終戦間際に進水している。この船は武智丸と呼ばれ3隻建造され、国内の貨物輸送などに活躍したが老朽化により廃船された。ただ、コンクリート船のため、船体はそのまま残されることで広島県安浦漁港の修築に際して、防波堤として再利用された。

武 智丸の内の2隻は、コンクリート船体を生かし防波堤として安浦漁港を現在も守っている。同様な再利用はアメリカ、カナダやイタリアでも行われており、特に第2次世界大戦でアメリカでは多数のコンクリート船が建造され、敗戦後の再利用として港湾の堤防として再利用されている。カナダではオンタリオ湖にあるオンタリオ・プレイスのプレジャーハーバーを構成している。

ベトナムでは、河川敷内でコンクリート船を建造しており、完成した船は河川の輸送船として活躍している。
(特任教授 畔柳昭雄)



教員異動

就任：高橋孝二 先生（4月より准教授として着任）

就任：名誉教授 増田光一 先生

就任：客員教授 大野正人 先生

昇格：寺口敬秀 先生（4月より助教）

退任：教授 小林昭男 先生（4月より特任教授）

退任：非常勤講師 内海智行 先生

海建

カイケンマガジン No.115

発行者／北嶋圭二 発行日／令和3年4月1日

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
日本大学理工学部海洋建築工学科教室
Tel：047-469-5420（事務室）
Fax：047-467-9446

編集委員：居駒知樹、恵藤浩朗、野志保仁、菅原遼、相田康洋
<https://www.ocean.cst.nihon-u.ac.jp>
デザイン制作 — QB System Co.,LTD.